

## 第 1 - 4 期の活動計画の達成状況

重点分野 1：大学拡充計画の推進						
<p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【基本方針:6】 新学部や附属病院の進展を検討</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療・福祉の総合大学化の完成</li> <li>2. 大学の発展と更なる進歩を目指す</li> <li>3. 附属病院の健全運営の取組と新たな分野への発展の取組</li> <li>4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行</li> <li>5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保</li> </ol>						
<p>責任者:鈴木秀幸(法人事務局長)</p> <p>分担者:辻 紀子(企画広報課長)、辻井悦生(管財課長)、向井正治(医療福祉事業管理室)、栗原 通(桜の森病院事務長)</p> <p>事務局:企画広報課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					→
中期計画 2.	—					→
中期計画 3.	—					→
中期計画 4.	—					→
中期計画 5.	—					→
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 医療・福祉の総合大学化の完成	<p>①医療・福祉の総合大学として、学部、学科、専攻の更なる充実を図り、社会のニーズに適応した学部学科等の新設、再編について検討、推進する。</p> <p>◆学科や専攻の増設により複雑化した現在の学部・学科編成を志願者が分かりやすいよう再編成するための検討をする。</p> <p>■達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>薬学部薬科学科(4年制)の2026年4月開設に向け、文部科学省への事前相談書類を1月下旬に提出した。事前相談の結果「届出」による設置が可能となり、学科設置届出書を2025年4月末に提出予定である。</p> <p>社会のニーズに適応した学部学科等の新設、再編等について検討する中で、ニーズが見込まれる4年制薬科学科の開設準備を進める一方で、医療健康データサイエンス学科は志願者が大きく減少し、今後も入学定員の確保が難しいと判断し、募集の停止を決定した。更に今後も、学部・学科の再編成について検討していく。</p>					
2. 大学の発展と更なる進歩を目指す	<p>①医療・福祉以外の分野の学部学科等の新設の可能性について検討する。</p>					

	<p>医療・福祉の総合大学として、大学がさらに発展していくように、食と健康を切り口とし、医療・福祉以外の分野の学部学科等の新設の可能性を検討する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) ■大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2024年度は、2026年4月開設の4年制薬科学科設置に向け準備を進めているため、検討には到らなかった。今後も、医療・福祉以外の分野の学部学科等の新設の可能性を検討していく。</p>
<p>3. 附属病院の健全運営の取組と新たな分野への発展の取組</p>	<p>①桜の森病院の ISO9001 認証の維持</p> <p>◆ISO9001 認証を維持する。2024年度は再取得審査を受審する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>令和6年8月29日・30日にISO再認証審査を受審し、9月9日付で再認証が決定した。</p> <p>②主要病院との関係強化</p> <p>◆県内主要病院への情報発信・情報収集に努める。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>院長が在宅登録医会(月1回)への出席などを通じて情報交換等を行っている。また、令和6年10月24日、10月31日、11月7日、令和7年3月18日、25日、27日に近隣の9病院への訪問を実施するなど、関連病院との強化を図っている。</p> <p>③外部研修会・公開講座の実施</p> <p>◆連携医療機関医師等に対する緩和ケア病棟入院料施設基準に準拠した緩和ケア研修会を実施する。(年1回)</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>令和7年1月30日に、連携医療機関医師等に対する緩和ケア研修会として、「各種オピオイド製剤の特徴と使い分け、自宅・施設での管理の注意点」をテーマに講演会を、その後、実習として「バルーンジェクター講習」を実施した。(参加者33名)</p> <p>◆一般市民を対象とした緩和ケアについての情報提供発信として市民公開講座を開催する。(年1回)</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>令和6年12月8日に、市民公開講座(演題:「緩和ケアってなに〜もっと知ってほしい緩和ケア」)を開催し、市民の方に緩和ケアや当院の取組内容について理解を深めることができた。(参加者34名)</p> <p>④学部との連携</p> <p>◆学部教員の医療資格者(管理栄養士、理学療法士、臨床心理士、臨床工学技士、鍼灸師等)との連携により、患者への医療サービスの充実を図る。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>入院患者等に対して、理学療法士等によるリハビリ臨床心理士による患者及び家族相談、鍼灸師による鍼灸治療を実施している。</p> <p>◆看護学部・薬学部・鍼灸サイエンス学科との実習連携を強化する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b>      当病院のスタッフと各学部（各学科）の実習担当責任者との間で綿密な協議を行った上で、実習生を受け入れている。本年度の実習生の受入れ人数は、看護学部 100 人、薬学部 12 人、鍼灸サイエンス学科 29 人である。</p> <p>⑤訪問看護ステーション桜の森との連携強化  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%)<input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>      病院内のミーティング、訪問看護ステーション利用者の病院の外来受診時の同席等を通じて、入院患者又は訪問利用者の情報等を共有し、適切な看護・リハビリのサービスを提供している。加えて、バイタルリンクのツールを活用して、病院と患者情報についてリアルタイムで情報共有を図っているものの、訪問看護ステーションの受け入れ体制のため紹介するものの、連携が十分に図れていない。(病院目標 連携症例数 30 件/年→実績 5 件/年)</p> <p>⑥新たな分野への発展の具体方策の検討  <input type="checkbox"/>達成(100%)<input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>      令和 5 年 10 月に開始した訪問診療を継続して実施し、訪問診療の充実を図っている。また、令和 6 年 6 月から 2024 年度診療報酬改定により新設された「在宅時医学総合管理料の注 15 及び在宅がん医療総合料の注 9 に規定する在宅医療情報連携加算」の施設基準の届出を行っている。</p> <p>⑦国・県の地域医療構想推進支援策の研究  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>      地域医療介護総合確保基金の内容及び活用方法等について、予定通り調査研究を進めている。      また、第 8 次三重県医療計画（北勢医療圏で一般病床と療養病床の基準病床数が既存病床数を上回る状況）に適切に対応するため、院長が鈴亀区域地域医療構想意見交換会（11/18、2/17 開催）、桑員・三泗・鈴亀地域医療構想調整会議（12/6、12/16、12/18 開催）に出席した。</p> <p>⑧北勢緩和ケアネットワーク事務局の世話人      事務局の所掌事務を適切に実施し、北勢緩和ケアネットワークの連携・強化を図る。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>      令和 6 年 7 月 4 日に「世話人会」、12 月 5 日に「医療従事者向けの研修会」を開催した。(参加者 20 名)      令和 7 年 2 月 24 日には「市民公開講座」（開催場所：四日市、テーマ「人生会議をやってみませんか？」）を予定通り開催し、市民の方に「人生会議」を始めることの重要性についての理解を深めることが出来た。(参加者 41 名)</p>
<p>4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行</p>	<p>①新学科増設に伴う必要スペース及び施設改修検討  <b>◆既存スペースでの導入検討</b>  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>      千代崎実験実習棟及び白子食堂棟への調理実習室導入案作成 (2024. 4)</p>

	<p>◆ 新增築での導入検討</p> <p>■ 達成(100%) □ ほぼ達成(実行中・80%) □ 遅れ有(50%) □ 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 千代崎及び白子での増築案作成(2024.4)</p>
<p>5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保</p>	<p>① 中期施設整備計画からの老朽化施設整備</p> <p>◆ 安全性、重要性、緊急性を考慮した老朽化施設の効率的な施設整備の実施</p> <p>建物：千代崎 A. B 講義棟外壁、防水設備の改修 衛生：白子 5 号館トイレ改修 空調：千代崎及び白子老朽化空調設備整備 (中長期整備計画により順次実施)</p> <p>■ 達成(100%) □ ほぼ達成(実行中・80%) □ 遅れ有(50%) □ 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>建物：千代崎 A. B 講義棟外壁、防水設備改修は修繕にて対応 (16 件修繕実施により大規模改修は見送り) 白子 3 号館屋上防水修繕を実施 (2025. 2 完了) 衛生：白子 5 号館トイレ改修 (2024. 9 完了) 空調：千代崎及び白子老朽化空調設備整備 (5 件実施) (2024. 6、7、9、12 完了) (追加) 白子貸付部空調整備を実施 (2025. 1 完了)</p> <p>② 法令改正等への遵守 (耐震、防災等)</p> <p>◆ 現行法令に乗った計画的更改</p> <p>二次部材：千代崎体育館バスケッボール耐震 千代崎エレベータ耐震 (地震感知装置他)</p> <p>■ 達成(100%) □ ほぼ達成(実行中・80%) □ 遅れ有(50%) □ 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>二次部材：千代崎バスケッボール耐震は新体育館建設のため取止め 千代崎エレベータ耐震 (地震感知装置他) (2024. 9 完了) 白子講堂天井耐震補助金申請の実施 (2025. 2 申請)</p> <p>◆ 更なるバリアフリー化の検討</p> <p>外構補床 (スロープ設置)</p> <p>■ 達成(100%) □ ほぼ達成(実行中・80%) □ 遅れ有(50%) □ 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>白子障害者対応 (ノンスリップ敷材) の実施 (2024.4) 千代崎講義室 (3112) スロープ設置及び床フラット化 (2024.9 完了)</p> <p>◆ BCP を考慮した防災施設の検討</p> <p>災害対策室の整備 備蓄品整備 自然災害管理、事業継続管理チームと連携した施設の整備</p> <p>□ 達成(100%) ■ ほぼ達成(実行中・80%) □ 遅れ有(50%) □ 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>BCP 訓練の実施 (R6. 4・8 の 2 回実施) 備蓄品の購入 (R7. 3 購入) 災害対策室の整備は場所等も含めて再検討</p> <p>③ 地球環境を考慮した施策整備の実施</p> <p>◆ 照明 (LED 化)、高効率空調設備への更改によるエネルギー削減</p> <p>■ 達成(100%) □ ほぼ達成(実行中・80%) □ 遅れ有(50%) □ 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>千代崎 B 講義棟共用部及び白子 1 号館共用部の LED 化の実施</p>

	<p>(2024.12、2025.3 完了)  千代崎図書館V期、健康管理センター、大学院棟 2566 室、管理棟  及び白子 5 号館 1 階、食堂棟空調更改の実施  (2024.6、7、9、12、2025.1 完了)</p> <p>④魅力的な学習環境の構築  ◆ICT を考慮した講義室の整備  千代崎A講義棟、白子 1 号館講義室整備  ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  上記達成状況の具体的内容  千代崎A講義棟3112整備及び、白子1号館1305.1306整備(2024.9)</p> <p>⑤強化指定バスケットボール体育館構築  ◆白子キャンパス体育館建設  ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  上記達成状況の具体的内容  設計完了(2024.11)、工事着工(2024.10)工事完成予定(2025.10)</p>
--	---

## 第1-4期の活動計画の達成状況

重点分野2：大学広報の強化と入学者受け入れの改善						
<p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【基本方針:6】 新学部や附属病院の進展を検討</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信</li> <li>2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化</li> <li>3. 学生募集体制の強化と選抜制度の見直し（全学部・全学科の定員充足及び適正化）</li> <li>4. ディプロマを明確にした広報活動の展開</li> <li>5. 高大接続を意識した社会貢献活動の推進</li> </ol>						
<p>責任者: 森下芳孝（学生・社会貢献担当副学長）            分担者: 小山尚樹（入学課長）、辻 紀子（企画広報課長）            事務局: 入学課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.	→					→
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信	<p>①広報内容について、各組織（学部学科）や事務局との相互連携を図り、教育、研究、学生生活、地域貢献などの情報収集と共有を行う。また、入学課と連携し、大学広報と入試広報の相乗効果を生みだしていく。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>            新着情報の発信や更新、載せ替えなど、日頃から他部署と情報共有し連携を図っている。            また入学課と協同して「受験生応援サイト」のリニューアル検討および制作、「大学案内 2025」の作成に取り組んだ。「受験生応援サイト」については、2024年5月24日に公開した。</p> <p>②大学の取り組み、教育や研究の成果、社会貢献活動などの内容を適切な媒体へ積極的に発信する。</p> <p>(1) 大学ホームページの充実化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学ホームページの管理運営、見直し改善を行う</li> <li>・ 新着情報発信への迅速な対応をする</li> <li>・ What's new の情報更新（随時）を行う</li> </ul>					

- ・ Web サイトのリニューアル(受験生応援サイト 2024 年 5 月予定)
- ・ 新規 Web サイトの検討 (学内外広報サイト 2024 年度内予定)

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

大学や学部学科の取り組みについては、多職種連携教育の取り組み・学会発表・大学祭・市民公開講座の実施・学官連携や産学連携の取り組み・共同開発などをホームページにて取り上げた。またボランティア活動などの課外活動については、ホームページの What's New や「SUMS News」で随時発信している。

研究については、研究振興課と社会連携研究センターと協同し、当該サイトで公開している。また、研究の成果については、同課と同センターより情報提供を受け、今後も大学ホームページの What's New や「SUMS News」でも発信していく。

「受験生応援サイト」については、高校生や受験生目線を意識したデザインの見直しを行い、ユーザーにとって使いやすいサイトにリニューアルをした。また、強化指定クラブ女子バスケットボール部の新サイトを制作し 2024 年 9 月 9 日に公開した。他にも、ボランティアセンターのサイトをリニューアルし、2025 年 3 月 26 日に公開した。

学内向けサイトとして「SUMS TIMES」を構築し、2025 年 3 月 18 日に公開した。サイト内では、広報に関する情報共有や資料配布、撮影データなど多岐に渡り提供していく。

(2) ソーシャルメディアを用いた情報発信を行う

- ・ ソーシャルメディアの活用方法を検討する
- ・ SNS の投稿内容や機能を活用し運用強化する
- ・ SNS や動画配信の発信方法について創意工夫する
- ・ 大学紹介動画について、内容の修正や追加を検討する

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

公式 Instagram では、学生の活動についての投稿を意識し、キャンパスライフをイメージできるような内容を投稿している。高校生や受験生の関心の高い「クラブ・サークル」については在学生からの投稿を募り、在学生目線での紹介に注力している。

2024 年度の Instagram 投稿件数は 93 件。

毎月コンスタントに投稿し、Instagram の機能を使用したアプローチで、視覚的にメッセージを伝えた。Instagram の機能を効果的に使用して高校生や受験生が興味をもつコンテンツを発信し、より多くの人にアカウントを見てもらえる可能性を高め、フォロワー数の増加を目指す。

学内 SNS の運用では、各学科にて SNS が運用できる仕組みを 2023 年 6 月に構築し、各学科で SNS を運用している。各学科において、新着情報やリアルな活動をタイムリーに発信している。

(Instagram…11、Facebook…8、X…2、LINE…1) 2025 年 3 月 31 日現在

(3) マスメディアを利用した情報発信を行う

- ・ 「SUMS News」の発行 (年 4 回発行)
- ・ 広告媒体の有効的な利用  
(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、交通広告等)

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

2024 年 7 月より、三重エフエム放送の番組「ゲツモク」内に本学提供のオリジナルコーナーを設け、本学の教員が月替わりで出演し、本学の旬の話題、教育や研究、各医療の専門家によるアドバイス等をリスナーに届け、大学の学術的な魅力を発信している。

	<p>新聞の記事体広告には、朝日新聞の教育企画と中部経済新聞の産学官連携特集へ掲載し、本学の取り組みや特長について広い読者層に向けての広報を行った。冊子版については、オープンキャンパスや各高校などで配付している。また中部経済新聞の連載企画「オープンカレッジ」へ本学の教員のコラムを定期的に寄稿しており、2024年度の掲載は6件である。</p> <p>他にも「SUMS News」を年4回発行し、大学の取り組みや学生の活動などを紹介している。</p> <p>また、大学祭や市民公開講座など学内イベントに関しては、マスメディアへの告知掲載や地域の方々への広報にも注力し、来場者や参加者の促進を行った。</p> <p>交通広告については、駅看板のデザインのリニューアルを進めており、2025年4月初旬頃から新しく掲出予定である。</p> <p>③大学ポートレートへの継続参画を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の教育情報に関する情報公開の充実を図る</li> <li>・一斉更新（2024年7月）、以降新情報を随時更新する</li> </ul> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>大学ポートレートは毎年7月に更新作業をし、最新の情報公開を行っている。7月以降も、随時新しい情報へ更新を行っている。</p>
<p>2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化</p>	<p>①パブリシティ機会の獲得に有効な情報発信に注力し、新聞・テレビ・ラジオなどマスメディアを利用したプレスリリースやプレス向けイベントなど広報活動を積極的に行う。</p> <p>(プレスリリース目標値：前年度比+10%以上)</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>マスメディア（新聞、テレビ、ラジオ）を利用した広告展開や、県内報道機関への本学の教育・研究・社会貢献活動などに関する情報発信を随時行っている。広報内容ごとに効果的な媒体を見極め大学PRへと繋げた。</p> <p>マスメディアに対しては、地域との連携や企業との共同開発や取り組みをはじめ、機能別学生消防団やボランティア活動など、前向きに取り組む学生の姿や声を発信した。また大学の取り組みやイベント、市民公開講座の実施や学官連携の取り組みなど、対外的な話題についても発信し市民の参加を募った。取材依頼のみならず、地域の方の参加を募るためのマスメディアを利用した告知についても強化している。2024年度はプレスリリースに対しての取材件数が増加し、マスメディアへの掲載状況については前年比121%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレスリリース：計24件（前年度比+2件、目標比±0）</li> <li>・マスメディア掲載状況：計108件</li> </ul> <p>内訳：テレビ・ラジオ（46件）、新聞（52件）、広報誌等（10件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞広告/マスメディア協賛：計16件</li> </ul> <p>内訳：テレビ・ラジオ（9件）、新聞（6件）、その他（1件）</p> <p>※2025年3月31日現在</p> <p>②マスコミとの良好な信頼関係を構築し、ネットワークを広げる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>今後も県内報道機関とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係の構築やマスメディアの興味を促す情報提供と、ニュースリリースのタイミングにも留意していく。</p>

<p>3. 学生募集体制の強化と選抜制度の見直し（全学部・全学科の定員充足及び適正化）</p>	<p>①2024 年度定員未充足学科（専攻）に重点を置いた広報活動を強化する。そのため、早期の受験生との接触機会を増やすことを狙いとし5月～9月にオープンキャンパスを開催する。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  オープンキャンパスの5か月連続開催（全5回、5月、6月、7月、8月、9月）を実施した。</p> <p>②早期入学者確保をめざし、総合型選抜の選抜方法の見直し（ZOOMを利用した事前相談及び、12月、1月、3月の選抜試験の追加）  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  総合型選抜の受験科目等の多様化（作文又は、数理テストの自由選択）と1月実施を追加。</p> <p>③早期入学者確保をめざし、学校推薦型選抜における指定校制入学者の増加を図るため、推薦基準等の大幅見直しを図る（対象校の拡大、出願評定基準の引き下げ、その他の出願条件の大幅な緩和）  <input type="checkbox"/>達成(100%) <b>■</b>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  指定校の拡大（145校追加）や出願基準の引き下げ（343校）、出願条件の大幅緩和などを実施し、早期入学者確保をめざした。2025年度も引き続き取り組んでいく。</p> <p>④双方向型の受験情報発信（一方的な発信ではなく、対話・相談型）をこれまで以上に推し進める。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  公式HPからのメールで入試相談を柔軟に運用し、休日や夏季・冬季休暇期間中も対応できる態勢を整えた。</p> <p>⑤対象を高校生（特に高1・2生）にしぼった学科別PR動画を作成し、定期的に配信する。（動画は、YouTubeなど動画配信サイトを活用し、簡易かつ自由に視聴できる環境を用意する）  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  5月に全学部・全学科の紹介動画の作成及び配信が完了した。</p>
<p>4. ディプロマを明確にした広報活動の展開</p>	<p>①ディプロマから想定される各学科が入学前に求める具体的能力（高校での履修内容・レベル）を明確化する（必要とされる知識をより具体的に明示する）  また、すでに全学科共通で入学前教育において不足する学力の補填と意識付けを行っているが、今後、学校推薦型選抜及び総合型選抜での入学者の比率が高まることを想定し、各学科独自のプログラムの導入（対面式）を推進する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <b>■</b>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  薬学部において、独自に総合型選抜・学校推薦型選抜で入学予定者向けに、対面（ZOOM 配信含む）式、入学前プログラムを企画。今後、他学部・他学科への拡大を検討中。</p>
<p>5. 高大接続を意識した社会貢献活動の推進</p>	<p>①高大連携協定校との定期的な協議を行うと同時に、県内高校とこれまで以上に連携強化を進める。なお、協定校を対象とした</p>

個別オープンキャンパスや高校内ガイダンスを実施する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

連携協定校4校（津田学園高校、四日市メリノール学院高校、セントヨゼフ女子学園高校、海星高校）の受け入れ及び、連携協定校独自高校ガイダンス（同4校及び、高田高校、鈴鹿高校、皇学館高校）を実施。

②各高校で導入されている「大学別ガイダンス」「学問探求活動」「キャリア教育」への医療系大学としてのサポートを積極的に行い、本学の教育内容への理解を促進する。（入学実績校からの依頼は原則、全て対応することを目標とする）

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

依頼対応校は前年度（延べ75校）と比較し本年度（延べ144校）は大幅に増加した。また、県内はもちろんのこと、隣接県から依頼も可能な限り対応している。

③県内高校生を対象としたイベント（科学オリンピック）の本学での共催・後援をこれまで以上に密にし、意識の高い高校生（高校教員）の本学に対する認知・理解を深める。（イベントへの本学教員・学生のサポート参加を進める）

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

10月に本学千代崎キャンパスにおいて、科学オリンピックを共催した。

### 第1-4期の活動計画の達成状況

重点分野3：教育内容の充実						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 修業年限内での全員卒業、国家試験や資格試験の全員合格に向けた「SUMS方式学修支援システム（トコトンできるまで教育）」の構築及び実行とその検証</li> <li>2. 数理・データサイエンス（統計学、ビッグデータ解析、IoT、人工知能）などの未来社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用力を備えた人材を育成するカリキュラムの全学的編成とそれらを展開する教育体制の確立</li> <li>3. 学修者の能動的な学修を支えるために、学修者自身が自学自習や就職活動に積極的に取り組むことができる支援システムの整備</li> <li>4. 医療人底力教育と多職種連携教育の拡充・発展のための全学的な視点に立つ学科横断型カリキュラムの再構築と実習施設の有効活用</li> </ol>						
<p>責任者:豊田長康（学長）            分担者:堀 浩樹（医療人底力教育センター長/教務委員会副委員長）、田口博明（FD推進委員長）、            鶴岡信治（医療健康データサイエンス学科長）、松原奈未（教務課長）            事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画1.	SUMS方式学修支援システムの構築		SUMS方式学修支援システムの構築とその検証			
中期計画2.	数理・データサイエンスに強い人材の育成カリキュラムを全学的に編成		数理・データサイエンスに強い人材の育成カリキュラムを展開する教育体制の確立			
中期計画3.	学修支援システムの拡充と学修成果の可視化		学修者自身が自学自習や就職活動に取り組む学修支援システムの整備			
中期計画4.	新設学科を加えた横断的カリキュラムの編成と大学附属桜の森病院の実習施設としての活用			新教育プログラムの導入とその実践		
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目		活動計画内容				
1. 修業年限内での全員卒業、国家試験や資格試験の全員合格に向けた「SUMS方式学修支援システム（トコトンできるまで教育）」の構築と実行とその検証		<p>教育改革委員会、教育質保証委員会、教務委員会、FD推進委員会の連携による学修者主体の教育を目指した教育改革と各学科での専門教育の質的向上を図る「SUMS方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の実施</p> <p>①本学における教育の基本方針と具体的施策の立案とその実施</p> <p>◆教育改革委員会と各学科及び全学共通分野の教育質保証委員会とが連携し、すべての学生の授業と自己学習による学習成果を担保しつつ、留年・休学・退学する学生を最小化する「SUMS方式学修支援システム（トコトンできるまで教育）」を実施する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>教育改革委員会が、各学科・専攻の教育質保証委員会と連携し、修業年限内の進級率及び卒業率の向上を目的とする「SUMS方式学修</p>				

支援システム(トコトンできるまで教育)」を構築し、計画通り実行している。各学科・専攻の教育質保証委員会から提出された活動報告書に基づいて、教育改革委員会においてその効果と課題を検討した結果、十分な効果が見られなかった学科については、原因を分析し、必要な指導を行った。今後は全学的に学修成果の向上が図られるよう、引き続き「SUMS 方式学修支援システム(トコトンできるまで教育)」を実行していく。

◆教務委員会は、教育改革委員会からの教育改革提案を具体化し、各学科との調整を図りながら、「SUMS 方式学修支援システム(トコトンできるまで教育)」の継続的な改善に取り組んでいる。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

#### 上記達成状況の具体的内容

教務委員会は、「SUMS 方式学修支援システム(トコトンできるまで教育)」を効果的に実行するために、各学科との情報共有と課題解決に継続的に取り組んでいる。「SUMS 方式学修支援システム(トコトンできるまで教育)」の一部をなす「特別教育(学習到達度の低い学生を対象にした補習授業)」の目的と運用を明確にするため、「特別教育(対象者のみ)の流れ(フローチャート)」を作成し、全学的に共有した。

これらの取り組みの成果として、退学率は、年度による変動はあるものの減少傾向にある(2017年度:3.03%、2018年度:3.52%、2019年度:2.24%、2020年度:1.97%、2021年度:2.03%、2022年度:2.67%、2023年度:2.7%、2024年度:2.89%)。

また、修業年限内の卒業率については、年々向上しており、教育の質向上による効果が確認できる状況である(2017年度:72.8%、2018年度:74.4%、2019年度:75.4%、2020年度:76.5%、2021年度:79.0%、2022年度:82.2%、2023年度:81.3%、2024年度:80.49%)。

引き続き修学年限内の進級率及び卒業率の100%達成を目指し、学内関係部門の連携を促進する。

#### ②FD推進委員会による教員の能力向上・意識改革と授業改善の取り組み

◆効果的な教授法の習得とともに実習や講義の質を向上させるために、年2回以上のFD研修会・講習会を開催する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

#### 上記達成状況の具体的内容

FD推進委員会は、以下に示す研修会を開催し、教員の指導能力の向上に取り組んだ。また、LMS研究部会では、ICTを利活用した教育方法の技術支援を目的として、以下の研究会を開催した。研究会の資料及び動画は、教育管理システムであるlearningBOXにアップロードし、全教員がいつでも閲覧・活用できるよう整備した。

○2024年度FD・SD講演会 Zoom開催

(参加者:179名 学内:154名※全教職員の52.3%、学外:25名)

開催日時:2024年9月2日(月)9時50分～

テーマ:レジリエンス教育について

-学生のレジリエンス力の正しい伸ばし方-

講師:小林 美佐子先生

(一般社団法人日本ポジティブ教育協会)

○2024年度LMS研究会 Zoom開催

第18回 2024年4月18日(木)9時30分～

(参加者 学内:64名※全教員の28%)

・learningBOX新機能AI自動生成について

- ・ Google ドライブの文字認識を活用した問題作成について
  - ・ ChatGPT4 を活用した小テストの集計方法
- 第 19 回 2025 年 3 月 12 日 (水) 9 時 30 分～ 開催予定
- ・ e-learning, LMS による教育の門戸開放とその社会実装概要

◆教育改善に役立てるために、学生参画型の教育改革委員会・FD 推進委員会を年 1 回以上開催する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

2024 年度学生参画教育改革委員会・FD 推進委員会合同会議を以下の日程で開催した。

開催日時：2024 年 8 月 1 日 (木) 9 時 30 分～ Zoom 開催

出席者：学生 13 名、教職員 21 名

議題：事前に行った学生対象アンケートの結果を基に以下の内容で議論した。

1. 3つのポリシー等の教育目標から見て教育が適切に行われているかについて
2. 学生による授業評価をどのように教員の授業評価に結びつけるかについて
3. 遠隔授業 (Zoom) および e-learning (learningBOX など) について
4. 教育に関する改善点について

◆本学 FD 活動を他の大学・短大等にも広報し、大学間連携を図る。大学間連携による授業改善効果を高めることを目的に、教育に関わる講演会を少なくとも年 1 回以上開催する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

FD 推進委員会、教育改革委員会、教務委員会、人事・厚生課主催の FD・SD 講演会を以下の内容で開催した。県内の高等教育機関に広報したことにより、学外から 25 名の参加者があった。

○2024 年度 FD・SD 講演会 Zoom 開催

(参加者：179 名 学内：154 名※全教職員の 52.3%、学外：25 名)

開催日時：2024 年 9 月 2 日 (月) 9 時 50 分～

テーマ：レジリエンス教育について

—学生のレジリエンス力の正しい伸ばし方—

講師：小林 美佐子先生

(一般社団法人日本ポジティブ教育協会)

さらに、learningBOX 株式会社との教育に関する産学連携共同研究を実施し、昨年度に引き続き、e-learning 大賞の「医療系 e ラーニング全国交流会会長賞」と 1EdTech Japan 賞の「優秀賞」を受賞した。LMS 研究部会では引き続き、学生ファーストの教育システムの継続的な改良に取り組む。

◆学生からの授業評価アンケートを実施し、授業改善や教育の質の向上を目指す。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

回答率については、昨年度は前期 40%、後期 20%であったが、今年度は前期 70.2%、後期 58.3%と大幅に向上した。その背景因子として、教育支援システムの更新により督促機能が追加されたことや、FD 推進委員会によるアンケート項目の精査や全学的な教員への周知を徹底したことが奏功したと分析している。

	<p>一方で、後期の回答率が前期と比較してやや低い傾向が見られるため、さらなる改善が必要である。回答結果に基づく改善策をシラバス等に明記するなど、学生へのフィードバックを徹底することが回答率向上に向けての課題であると分析している。</p> <p>◆LMS (Learning Management System) 研究部会では、learningBOX を用いた授業改善の事例等を含む研修会を年 2 回以上開催する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>learningBOX を用いた授業改善の事例等を紹介する研修会を以下の内容で実施した。</p> <p>○2024 年度 LMS 研究会 Zoom 開催</p> <p>第 18 回 2024 年 4 月 18 日 (木) 9 時 30 分～ (参加者 学内：64 名※全教員の 28%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ learningBOX 新機能 AI 自動生成について</li> <li>・ Google ドライブの文字認識を活用した問題作成について</li> <li>・ ChatGPT4 を活用した小テストの集計方法</li> </ul> <p>第 19 回 2025 年 3 月 12 日 (水) 9 時 30 分～ 開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ e-learning, LMS による教育の門戸開放とその社会実装概要</li> </ul> <p>◆LMS 研究部会は、ICT を利活用した双方向型授業や自学自習、演習の教材作成などに関する、教員のためのマニュアルを作成し、学内に公開することにより、学修支援システム活用率の向上を推進する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>LMS 研究部会では、動画を活用した自学自習や演習の資料作成など、教員向けのマニュアルを作成し、learningBOX にアップロードすることで全教員と共有した。これにより、学修支援システムを、いつでもどこでも利用できる環境を整えた。また、常に最新の内容を共有することを目指して、マニュアルの定期的なメンテナンスを実施した。</p>
<p>2. 数理・データサイエンス (統計学、ビッグデータ解析、コンピュータサイエンス、人工知能) など未来社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用力を備えた人材を育成するカリキュラムの全学的編成とそれらを展開する教育体制の確立</p>	<p>数理・データサイエンス教育の始動に向けての教育体制の整備</p> <p>①数理・データサイエンス教育の全学的な体制作り</p> <p>◆ICT を活用した基礎的な情報活用能力を養成する科目を全学的に実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>全学科の第 1 学年学生が履修する授業科目「医療人底力実践Ⅲ (データサイエンス)」(必修科目)を実施しており、令和 6 年度には文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル) に申請し、認定された。</p> <p>また、全学科の学生が履修できる基礎教育分野の授業科目「情報時代と医療」(選択科目)において、従来の遠隔授業を 2024 年度から以下のように変更した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI 医療&amp;ヘルスケア (医療、検査、診察、手術、薬、介護) の分野における ICT を利用した先進的な事例を紹介し、学生の学習意欲の向上を目指した。また、授業を通じて学んだ知識を確実にするため、毎回の授業で、重要な基礎的な情報の利活用に関する小テストを e ラーニングシステムである learningBOX を利用して実施した。また、授業はオンデマンドで繰り返し視聴できるようにした。</li> <li>・ データ利活用の基礎的能力を向上させるために、地元自治体である鈴鹿市が保健関連事業として実施した「フレイル予防のための高齢者の体力測定」のデータの供与を受け、EXCEL を使用した</li> </ul>

各種統計量、散布図、回帰直線などを求める実践的なレポートを学習課題とした。

- ◆「数理・データサイエンス（統計学、ビッグデータ解析、IoT、人工知能）」などの未来社会に必要とされる数理的思考能力やデータ分析・活用能力を育成するために、医療機関・行政・企業等の実データ等を用いた科目を実施する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

#### 上記達成状況の具体的内容

「数理・データサイエンス（統計学、ビッグデータ解析、IoT、人工知能）」など未来社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を育成する科目として、2022年度からカリキュラムに「医療人底力実践Ⅲ（データサイエンス）」を全学科・専攻の必修科目として導入した。e-learning システムである learningBOX を活用して、ひとが集中して学習できるとされる時間（15分程度）に合わせたオリジナル動画（YouTube 動画）を48本（1回分の授業に対して6本）作成し、学生が学習したいときに何度でも学習できるようにオンデマンド教材の動画配信を行った。また、動画を十分理解しているかどうかを確認するための「理解度テスト」と「EXCELを使用したデータの可視化レポート」を各回の授業内容に合わせて作成し、学生の学習能力に応じた速度で学習できるように工夫した。

また Society5.0 を視野に入れ、画像診断支援システム、本学が既に導入している装着型サイボーグ HAL（生体信号反応式運動機能改善装置）などでの人工知能の利活用、SNS システムの仕組み、DX の利活用などについて解説した。また、医療・福祉分野ではデータサイエンスの理解が必要であることを例示により解説した。さらに、PC やスマホでも学習できる環境を整備し、学生一人ひとりの興味や関心を引き出すための多様な学びの場を提供した。数理・データサイエンス教育の向上に向けた自学自習の仕組みを構築し開講した。さらに、2023年度より科目修得者には「修了証」を発行し、学習意欲を高める取り組みを実施している。この取り組みは2024年度以降も継続し、より一層の数理・データサイエンス教育の向上を目指す。

- ◆社会の一員として Society5.0 と SDGs を実現することを意識させ、学生一人ひとりの興味や関心を引き出すための多様な学びの場を提供することを目的とした授業を展開する。また、数理・データサイエンス教育の向上を目指して、learningBOX や動画などを使用したデジタル教材を活用した自学自習・演習の仕組みを継続して整備し、教育の質の向上を目指す。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

#### 上記達成状況の具体的内容

2022年度から開講している「医療人底力実践Ⅲ（データサイエンス）」の授業は、COVID-19 パンデミック収束後も引き続きオンデマンドで実施しているが、受講者からの声を参考に、内容の強化を行なった。具体的には、Excel の操作に関する画面動画に地域社会の最新のデータを追加し、動画内容を更新した。新しい教材では、学生が一人で Excel によるデータの可視化の操作ができるように、任意の時点で一時停止と繰り返し視聴ができるようにした。さらに、「SUMS 方式学修支援システム（トコトンできるまで教育）」を実践する画面動画を追加し、学生の興味や関心を引き出す教材となるよう内容の強化を図った。

「修了証」を発行することで、履修者の学習意欲の向上を目指す取り組みも行なっている。その結果、履修者644名中、合格者は639名（再試験での合格者を含む）であった。

- ◆ChatGPTをはじめとする生成系 AI の登場などで社会変革が起こりつつある。データサイエンスの知識と技術を修得すること

	<p>は高等教育における重要な教育目標である。それを達成するための講座を開講するとともに、数理・データサイエンス・AI と社会のつながりについての基礎的な知識を教育できる教員の養成を目指す。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>数理・データサイエンス・AI と社会のつながりについて基礎的な知識を教育できる教員の養成を目的とした、「データサイエンス入門講座」を2024年度新規採用教員及び未受講の教職員に対し開講を予定している。最終的には、全教員の受講を目指す。</p> <p>また、データサイエンスの基盤となるデジタル・トランスフォーメーション(DX)の学内での普及を促すために、全学的な組織である「DX推進プロジェクトチーム」が結成されている。DXプロジェクトリーダーが講師を担当し、全教職員が視聴する「DX推進研修会」を当該年度内に2回実施し、データサイエンスの基礎的な知識を教育できる教員を養成した。これらの研修会は、以下の内容で開催した。</p> <p><b>【第1回】6月27日(木)9:30-11:00</b></p> <p>1)大学協議会での審議内容  2)DX推進プロジェクトの進め方(本学のDXポリシーの提案、DXの推進体制、DX推進計画、DX推進事例)  3)文部科学省：数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシー)の概要と申請内容</p> <p><b>【第2回】7月11日(木)9:30-11:00</b></p> <p>1)本学のDXポリシー・DXビジョン  2)DX推進事例：ペーパーレス化  3)DX推進事例：プリンタの利用形態</p> <p><b>【効果】</b></p> <p>これらの研修会を実施することにより、ICT教育センターが管理しているコンピュータ演習室のプリンタを廃止することができた。また、世界的な潮流であるデータサイエンス(DX、SDGsを含む)に対する教員の理解が深まった。</p>
<p>3. 学修者の能動的な学修を支えるための学修者自身の自学自習や就職活動に学習支援システムを役立てる仕組みの整備</p>	<p>学修者本位の教育として、学生が「学修」する者としての責任と覚悟に気付き、能動的に学習できる体制を構築する。</p> <p>①学修支援システムの活用</p> <p>◆「リメディアル教育改革チーム」を立ち上げ、入学前教育及びリメディアル教育対象学生を抽出するためのプレイスメントテストを含むリメディアル教育を見直し、基礎学力が不足する学生を入学後早期に抽出し、e-learningなどを活用しながら学力の向上を図る仕組みを構築する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>リメディアル授業を担当している医療人底力教育センター教員と8学科・専攻の学科長及び専攻長との情報共有とリメディアル教育の改善に向けての意見交換を実施した。医療人底力教育センターと学科・専攻との連携強化により、学科・専攻が求める専門教育に必要な基礎学力レベルや学習領域、入学者選抜方法と基礎学力との相関性などを分析し、その結果に基づいて次年度の実施計画を策定している。</p> <p>◆遠隔会議システムZoomやe-learningなどを利用した反転授業と事後学習を推進する。有効な反転授業と事後学習を実施するための教材(学科・専攻毎のリメディアル教材と全学共通教材)の作成を行う。学生の授業外学修時間の管理を強化し、予習・復習を全くしない学生をなくす(0人)ことを目指す。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p>

遠隔会議システムの Zoom や動画配信を利用した反転授業用教材を作成した。これらの教材を学習管理システムである learningBOX にアップロードして、学生の事前学習や事後学習に役立てている。学科・専攻単位での教材と全学共通分野の教材（それぞれの領域について 1 科目以上）を作成し、リメディアル教育の授業で積極的に活用している。

現在、learningBOX の利用率は 82% に達しており、特に反転授業で多くの学生に利用されている。今後も利用率のさらなる向上を目指す。

在学生の授業外学修時間に関するアンケート調査では、「全くしない」と回答した学生は 86 人で、全体の約 3% であった。授業外学修を全くしない学生をゼロにすることを目標に、改善策を検討する。

## ②IR 推進室による分析データの活用

- ◆「リメディアル教育改革チーム」を立ち上げ、成績不振の学生を早期に抽出するための情報活用方法の検討とリメディアル対象学生フォローアップデータの分析を行い、医療人底力教育センターと学科・専攻、学生総合支援チーム、教務課との情報共有を強化する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

### 上記達成状況の具体的内容

受講状況に課題がある学生については、適宜、学科・専攻への通知を行った。通知された情報を基に、学科・専攻の担任教員が対象学生に対して指導を行い、学生の学修行動の改善に繋げることができた。学修行動や生活態度に問題のある学生に対して早期に介入を行う全学的な専門家チームとして、学生総合支援チームが組織され、学科・専攻では対応が難しい学生に対しても、早期に対応する学内体制が整備された。

## ③学修者主体の教育を実践し、教育の質保証を担保するため、一人ひとりの学生が「何を学び、何を身に付けたのか」を可視化し、評価することができる学修ポートフォリオの充実に努める。また、その活用方法を検討する。

- ◆教務管理システムの新規導入などにより以下の修学支援を実現する。
  - ・学修ポートフォリオの充実による個々の学生の成長の確認
  - ・学生の学修到達度評価におけるルーブリックの活用と評価尺度の標準化・可視化
  - ・ディプロマ・ポリシーに示す学修の到達目標の達成度の確認
  - ・就職活動を支援するための到達度認定書の発行や卒業時の学習成果の可視化のためのディプロマサブリメントの交付

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

### 上記達成状況の具体的内容

新規導入した教務管理システム (A-Portal) は、学修ポートフォリオなどの学修成果の可視化に有効であり、同システムを活用した学修成果の記録と学生・教員間の共有の取り組みを開始した。

各学生のポータルサイトでは、GPA による成績が表示され、クラス内での自身の順位を確認できる。また、ディプロマ・ポリシー毎の到達度がレーダーチャート図で確認できる。

A-Portal に表示されるシラバス上に、授業単位での学修到達度を示すルーブリックを作成できる環境を整備し、評価の可視化が可能になった。

さらに、卒業時の学修成果を可視化し、学生が修得した能力を保証する「ディプロマサブリメント」の交付を予定している。

今後は、ディプロマ・ポリシー達成度及び各科目の教育目標達成

	<p>度について、学生自身による自己評価を導入し、成績との乖離を可視化することで、学生の学修行動の向上を図る取り組みを進める予定である。</p> <p>◆卒業時に実施する学生による学習到達度の自己評価の結果を解析し、大学として掲げる教育目標の達成状況の確認を行う。この結果は、本学ホームページに公表するとともに大学としての継続的な教育の改善に活用する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学修成果に係る自己評価調査を2018年度から実施し、継続して90%程度の回答率を得ている。この結果を、本学ホームページ上に公表するとともに、学内の各教育関連委員会に提示、協議することで、継続的な教育の改善に取り組んでいる。</p> <p>④卒業後アンケート調査結果等とそれらの活用</p> <p>◆卒業生の就職先等を対象にした調査を実施し、その調査結果を公表するとともに、教育改善に活用している。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2024年度に実施した「卒業生・就職先に対するアンケート」の調査結果を、本学ホームページ上に公開した。調査結果を、IR推進室とFD推進委員会、教務委員会において検討し、教育改善につなげた。調査結果からは、就職先側が学生に求める「コミュニケーション能力」の項目が、本学卒業生では高く、一定の教育効果が達成できていると評価した。一方、問題解決力やリーダーシップといった「組織の中で必要とされる高次の人間力」が、本学卒業生に求められていた。この結果に基づいて、「問題解決力」、「リーダーシップ」を涵養するための教育の強化を計画する。</p>
<p>4. 医療人底力教育と多職種連携教育の拡充・発展のための全学的な視点に立つ学科・施設横断型のカリキュラムの再構築とその実践</p>	<p>入学前教育と初年次教育の強化、専門教育との連携により、医療人底力教育における専門教育の基盤となる知識・技能・態度を総合的に涵養する教育体制を整備する。</p> <p>①医療人底力教育の再編成</p> <p>◆実社会での課題解決に活かせる能力を養うため、医療人底力教育に数理・データサイエンス教育の要素を組み入れ、さらに専門分野横断的なSTEAM教育の実施を計画する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2022年度から開講している全学科横断教育である「医療人底力実践Ⅲ(データサイエンス)」(必修科目)では、COVID19パンデミックにより導入したオンデマンド授業を継続することで、学生の学習への利便性の向上を図った(繰り返し視聴を可能にした)。また、履修者の学習意欲を高めるために「修了証」を発行した。本年度の履修者の単位取得状況は、履修者644名で合格者は639名(再試験での合格者を含む)であった。</p> <p>◆「医療人底力教育改革検討チーム」を立ち上げ、「医療人底力教育実践プログラム(実践I-IV)」の再構成について検討する。発展プログラムとして位置付けていた実践IVプログラムを1年次から2年次に移行し、地域連携型教育や少人数共同学習、多学科横断的グループ構成などを導入することで学習効果の向上を図る。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>「医療人底力教育改革検討チーム」から示された方針に沿い、2025</p>

年度からの新しい授業構成への移行に向けて、「他学科連携プログラム準備委員会」を組織し、準備を進めている。

初年次教育として実施している「医療人底力教育（医療人の基礎知識、医療人の教養と常識、医療人底力実践 I-IV、健康科学から構成）」、それに続く「多職種連携教育（基礎・事例学習・実践）」と「慢性疼痛高度医療者養成プログラム」、さらには専門教育とが有機的に連動するよう医療人底力教育の教育目標とプログラム運営方針の再設定とプログラムの一部改編（実践 IV での複数の学科に所属する学生グループによる地域連携型教育・プロジェクト基盤型学習の導入など）を計画している。

さらに、「医療人の教養と常識」で開講している授業科目についても授業改善を計画し、「三重を学ぶ」や「コミュニケーションの大切さ」など、本学独自の魅力を持つ新たな授業科目を開講し、2025 年度実施に向けて準備を進めている。

◆大学附属施設である桜の森病院、桜の森白子ホームとの連携協力に基づく、施設実習による実践的カリキュラムを導入し、早期体験実習や臨地実習の充実を図る。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

#### 上記達成状況の具体的内容

「医療人底力実践Ⅱ（体験プログラム）」では、大学附属の緩和ケア病院である桜の森病院の特別講義を実施し、医療職を目指す学生が医療現場を知るための導入授業とした。

また、「医療人底力実践Ⅳ（発展プログラム）」の授業において、大学附属の特別養護老人ホームである桜の森白子ホームでの全学科の学生を対象にした体験型実習を実施した。これらの授業により、医療職を目指す学生としての意識づけや医療者に求められる献身性の涵養、地域医療・福祉への理解の向上が期待される状況にある。

#### ②高いレベルの学力と医療人としての総合的な力を培うための教育

◆既に導入している「事例と実践で学ぶ多職種連携教育」を学生が所属する学科・専攻の専門性を活かせる授業構成・授業内容へと発展させるとともに、全学科の学生が履修できる教育プログラムを整備する。これにより、多職種連携を通じて医療人としての総合的な力を学修できる継続性のある教育プログラムを達成する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

#### 上記達成状況の具体的内容

4 年次開講の「実践で学ぶ多職種連携」（選択授業）には、7 学科から 48 名の履修者があり、所属が異なる学科の学生がチームを組み、地域の病院、老健施設、訪問看護ステーション、地域包括ケアセンターなど 10 施設での体験的実習に参加することで、質の高い実践的な教育を実施することができた。2024 年 10 月 5 日（土）実施の学生による報告会では、学生による報告からその成果を確認することができた。今後も授業評価に基づいて、本教育プログラムの継続的な改良に取り組む。

3 年次開講の「事例で学ぶ多職種連携」では、広報リーフレットを用いた学内周知を行い、さらに担当教員によるガイダンスでの説明を積極的に行ったことで、履修者が 119 名に増加した（2019 年度 45 名、2020 年度 47 名、2021 年度 60 名、2022 年度 75 名、2023 年度 134 名）。

2 年次開講の「慢性疼痛で学ぶチーム医療（実践）」は、2016 年度文部科学省「課題解決型高度医療人養成プログラム」での採択を受け、三重大学医学部との大学間連携プログラムとして 2017 年度から導入したプログラムであり、事業期間終了後も継続して実施している。COVID19 パンデミックによるオンライン授業としての実施期間を経て、2022 年度から対面授業として実施している。本授業には、本

学全学科の学生に加え、三重大学医学部医学科・看護学科の学生が参加しており、広範囲の多職種連携教育を実現している。2024年度の修了者は49名（鈴鹿医療科学大学39名、三重大学10名）で、これまで319名（鈴鹿医療科学大学242名、三重大学77名）の学生が修了している。次年度以降も大学間連携プログラムとして本プログラムを継続する計画である。

授業終了後のアンケートでは、98%の参加学生が「医療人としての将来の活動に役立つ」と回答している。

### ③新しい学生総合支援システムの構築とその実践

- ◆全学的に「学生総合支援改革チーム」を立ち上げ、TAなどを活用した成績不振学生対象の修学支援と学びの相談、社会生活上の困難を持つ学生への社会心理的支援を各学科・専攻と連携しながら実施する体制を構築する。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

#### 上記達成状況の具体的内容

2023年度に「学生総合支援改革チーム」を立ち上げ、修学困難学生を対象にした支援体制を構築することを決定した。その一環として、新たに「大学・学生支援検討チーム」を学長主導で組織し、学科・専攻レベルでは解決が難しい学生支援に関する課題に対応する体制を整備した。学内では、同チームを学科・専攻からの相談事例に対して、機動性を持って対応する専門家チームとして位置づけている。さらに、学科・専攻レベルでの学生支援体制の強化に向けて、10月以降、学科・専攻での学生支援に関する会議（実質的には、各学科・専攻の教育質保証委員会が担当している）の状況を月例報告書として、同チームに提出することを求めている。

- ◆「学生総合支援改革チーム」による学生総合支援活動の一環として、学生に対するコーチング/メンタリングに関する教員能力の向上、学生の行動タイプ別の評価方法の開発などに取り組む。また、指導後の学生の行動変容を解析し、学生総合支援の有効性と課題を教育関連会議で検討することで、学生総合支援の継続的な改善に繋げる。さらに、FD/SDなどを通じて、学生総合支援活動の状況を教職員全員と共有するとともに、教職員の学生支援能力の向上に努める。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

#### 上記達成状況の具体的内容

「学生総合支援改革チーム」は、「大学・学生支援検討チーム」に移行し、学科・専攻レベルでは課題解決が難しい学生に対する総合支援の方針を提言する活動を開始している。各学科・専攻においても修学あるいは生活上の課題のある学生に対する支援が強化され、その状況が毎月大学・学生支援検討チームに報告されている。

## 第 1 - 4 期の活動計画の達成状況

重点分野 4 : 学生支援の強化						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国家試験の標準修業年限内合格率 100%を目指し、きめ細かい指導方法の確立と実施。</li> <li>2. 就職率 100%を目指し、医療機関に加え就職先として民間企業への就職支援の充実。</li> <li>3. 学生アンケート調査結果も踏まえ学生支援体制を強化し、面倒見の良い大学を実践する。</li> <li>4. 学友会やクラブ活動・ボランティア活動を支援し、チームワークや自主性を育てる</li> </ol>						
<p>責任者: 森下芳孝 (学生・社会貢献担当副学長)</p> <p>分担者: 岩崎泰正 (健康管理センター長)、大井一弥 (国家試験対策委員会副委員長)</p> <p style="padding-left: 20px;">綾野真理 (学生相談室室長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、大畑太 (学生課長)、</p> <p style="padding-left: 20px;">勝田能成 (白子事務部長)、濱口直樹 (白子学生・就職課長)</p> <p>事務局: 学生課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					▶
中期計画 2.	—					▶
中期計画 3.	—					▶
中期計画 4.	—					▶
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 国家試験の標準修業年限内合格率 100%を目指し、きめ細かい指導方法の確立と実施</p>	<p>① 本学の教育理念である「知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成」を実践し、支援体制構築に向けて取り組む。各国家試験における合格率に毎年度の目標値を設定し、目標達成に必要な行動計画の企画立案と施策実施をする。</p> <p>◆ 計画の達成状況については学長諮問機関である国家試験対策委員会で達成状況を把握し運営していく。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>国家試験対策委員会を年 4 回開催し、指導対策に関する課題の情報共有および他学科の支援体制についての気付きができるよう整えたが、目標値に届かない学科が複数あった。</p>					
<p>2. 就職率 100%を目指し、医療機関に加え就職先として民間企業への就職支援の充実</p>	<p>① 本学の「教育方針 2021」にある「面倒見の良い、魅力ある大学」を目指し、卒業後の進学・就職支援体制構築に向けて就職希望者に対する就職率 100%を目標とする。</p> <p>目標達成に必要な行動計画の企画立案と支援体制を整え、施策実施状況については、就職委員会で達成状況を把握し運営していく。</p> <p>◆ 学科単位で開催する年間就職ガイダンスに加え、進路就職相談の個別対応については対面方式の対応と WEB による遠隔オンライン方式を活用して対応していく。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>					

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 外部資源を活用した就職相談会の実施など、個別に対応した支援体制を継続している。</p> <p>② 薬学部 5 年次生を対象とした学内合同企業説明会の実施 病院・薬局・製薬メーカー・官公庁など幅広い業界の法人様に参加いただき、オンライン等を活用して情報発信を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 2 月 8 日に開催し 35 の法人が参加した。学生の参加率は 4 割程度であったが、多様な業種の企業と交流できる貴重な機会として今後も継続していく。</p> <p>③ 薬学部 1～6 年次生を対象とした学内個別企業説明会の実施 薬剤師が活躍できる業界を知り、目指す薬剤師に対する意識向上に繋げることを目標とし、オンライン等を活用して企業研究の場とする。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 調剤薬局 5 社からの申し込みがあり開催した。学生の参加は各社とも数名程度であったが、企業ごとの具体的な業務内容や社風等を知るための手段として有効であり、今後も継続していく。</p> <p>④ 看護学部 1～3 年次生を対象としたマナー講座の実施 低学年からマナーに対する意識付けをし、実習において実践することで、医療人としてのマナーを身に付ける。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 1 年次生の看護体験実習前のマナー講座を 2 月 6 日に実施し、看護職としての心構えと基本的なマナーについて学んだ。 2 年次生の基礎看護学実習前のマナー講座を 8 月 1 日に実施し、1 年生で学んだことの振り返りと、より実践的なマナーについて学んだ。 7 月 31 日に 3 年次生の看護学臨地実習前のマナー講座を実施し、専門性の高い臨地実習に臨む前の高度な医療現場でのマナーについて学んだ。</p> <p>⑤ 看護学部 3 年生を対象とした三重県厚生農業協同組合連合会の病院説明会の実施 就職ガイダンスの一環として、病院研究を目的とし JA 三重厚生連に所属する病院の看護部長及び卒業生による病院説明会を実施する。三重県の病院への就職率を向上させる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 7 月 4 日に 3 年次生対象の説明会を開催した。多くの学生が参加し、現役看護師の声を聞くことで、実際の看護現場の雰囲気や具体的な教育体制について理解を深めることができた。</p> <p>⑥ 医療栄養学科に関して、民間企業就職への魅力付けを行い、病院・施設と並行して企業就職への就職活動を行えるよう指導していく。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 医療栄養学科管理栄養学専攻のみのガイダンスを実施するなど企業就職への意識付けを進めてきた。</p>
--	--

<p>3. 学生アンケート調査結果も踏まえ学生支援体制を強化し、面倒見の良い大学を実践する</p>	<p><b>【学生課】</b></p> <p>①学生からの意見・要望をより学生支援に反映させるため、学生調査の質問項目を検討する。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  よりよい学生支援を行うために、これまでの学生調査の質問項目に加えて、新たな質問項目を提案。担当部署より追加質問事項も加えて、学生にアンケートも実施済み。</p> <p>②在学生アンケートを実施する。(意見・要望の集約)  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  5月21日開催の学生総会で、「大学への要望」・「設置してほしい設備等」について、在学生を対象に意見聴取を行った。</p> <p>③卒業生アンケートを実施する。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  本学ホームページ内に卒業生アンケートフォームを設置し実施。なお、回答率を上げるため、同窓会法でもアンケートの協力を行った。</p> <p>④学友会組織との意見交換会を実施する。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  学生総会時に聴取した在学生からの意見を取りまとめた上で、6月27日に学友会顧問(副学長)・学生課と学友会執行部員との懇談会を実施。</p> <p>⑤学長と学生との意見交換会を実施する。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  様々な学科から参加学生を募り、1月27日と1月31日に学長との意見交換会を実施。</p> <p>⑥あいさつ運動及び、通学路における交通指導の実施  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  今年度は6月から、教職協働により「あいさつ運動及び、通学路における交通指導」を実施している。次年度は4月から始められるように、今年度中の学生指導委員会にて日程を調整していく。</p> <p>⑦学生食堂・売店との意見交換会を実施する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <b>■</b>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  会議体としては実施していないが、担当者レベルで委託給食会社の責任者と意見交換を行い、学生サービスの向上に努めた。</p> <p>⑧障がい学生に対応した学内環境を整備する。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  学生からの申請に伴って障がい学生支援委員会を開催し、そこで協議された支援決定書に基づいて学内の環境整備を行った。</p>
---	--

	<p><b>【健康管理センター】</b></p> <p>⑨健康診断を円滑に実施し、学生の健康状態のスクリーニングを行う。所見のある学生には、再検査および保健指導を実施し、必要であれば医療機関を紹介するなど、健やかに大学生活が送れるよう支援を行う。再検査に来ない学生には、再度呼び出しを行い、再検査を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2024年度の学生健康診断は全日程を予定通りに実施し、対象学生へのスクリーニングを完了した。有所見者に対しては速やかに呼出しを行い、来室した学生全員に対して再検査を実施した。また、必要に応じて保健指導および医療機関への紹介も行い、学生が安心して大学生活を送れるよう支援した。再検査未受診者には個別に再度の連絡・呼出しを行い、受診の促進に努めた。</p> <p>⑩全学部生を対象にUPI（精神的健康度調査）を実施し、こころの問題を抱えていると思われる学生の早期発見および学生相談室と連携して面談を行うことにより、精神的な面へのサポートを行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2024年度も全学部生を対象にUPI（精神的健康度調査）を実施した。採点后、精神的な支援を要すると考えられる学生については、速やかに学生相談室と情報を共有した。該当する学生に対しては、学生相談室より呼出しを行い、必要に応じて面談を実施するなど、早期支援に繋げた。</p> <p>⑪メンタルヘルス上の悩みや問題を抱えている学生に対して、学生相談室へ繋ぐなど、迅速な判断と対応を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>健康管理センターへ来室した学生のうち、メンタルヘルス上の問題が疑われるケースについては、速やかに学生相談室の利用を促した。必要に応じて面談予約の支援を行うなど、学生が適切な支援につながるよう迅速な対応に努めた。</p> <p>⑫感染症の予防及び、修学に必要な抗体検査（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎、B型肝炎、C型肝炎）を円滑に実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2024年度分については、すべて実施済み。</p> <p>⑬抗体検査の結果、基準値を満たさない学生には、学外実習における感染のリスクを予防するため、ワクチン接種の勧告を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2024年度分については、すべて実施済み。</p> <p>⑭新型コロナウイルスやインフルエンザなど、感染症の拡大防止のため、必要な学生に対して抗原検査を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>体調不良で来室した学生に対して、新型コロナウイルスの疑いがある場合には、学内での感染を防ぐため、積極的に抗原検査を</p>
--	---

実施した。

インフルエンザについては、これまで検査キットがなかったため、今年度より新型コロナとインフルエンザが同時に検査できるキットを購入することとした。

**【健康管理センター・白子保健室】**

⑮各々の施設が管轄する学生に対し、病気やケガなど健康上の問題点への迅速な対応、ならびに適切な処置を行い、必要な際には病院搬送を行う。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

各キャンパスにおいて、病気やケガなど健康上の問題が生じた学生に対し、状況に応じた適切な初期対応を行いました。医療機関での診察が必要と判断された場合は、速やかに病院への搬送を実施しました。特に緊急性の高いケースについては、救急車を要請するなど迅速かつ適切な対応に努め、学生の安全確保を図りました。

⑯入学時に提出してもらっている「健康調査票」の内容をもとに、大学生活を送るにあたり健康面での配慮が必要な学生に対して、医師による面談を実施する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

新入生から提出された「健康調査票」の内容を確認し、大学生活を送る上で健康面での配慮が必要と判断された学生については、白子保健室へ呼出しを行い、医師による面談を実施しました。

**【学生相談室】**

⑰学生の多様なニーズに対応するため、対面、メール、電話、Zoom等、多様な方法で相談活動を行う。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

休学中、不登校気味、体調不良などのため対面での相談が困難な学生に対して、メール、電話、zoom等での相談を行なった。

⑱学生のニーズを把握するために、アンケート調査を実施する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

アンケート内容を検討し、実施準備を進めている。

⑲相談件数の増加、相談内容の複雑化、障害学生支援対応件数の増加等に伴う業務逼迫の状況を改善するために、業務の見直しを行う。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

相談記録や活動実績の集計などの業務の効率化を図るため、記録のデジタル化に向けて準備を進めている。

⑳学内各署との連携強化のために、学生支援についての教職員からのニーズを把握するために、アンケート調査を実施する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

アンケート内容を検討し、実施準備を進めている。

**【医療栄養学科】**

	<p>①学生への栄養及び食生活指導による健康管理への介入 健康診断の結果から栄養不良（低栄養及び過栄養等）に該当する学生への栄養相談の充実。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 栄養不良の学生に対して、栄養相談の案内を送り実施している。継続的な実施が重要なため、今後も引き続き実施していく。</p> <p>②学生への栄養及び食生活に関する情報発信の実施 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生への栄養及び食生活に関する情報の内容について検討し、発信している。情報発信の回数について、検討していく。</p>
<p>4. 学友会やクラブ活動・ボランティア活動を支援し、チームワークや自主性を育てる</p>	<p>①学生団体組織（学友会、大学祭実行委員会、クラブ・サークル運営委員会、各課外活動団体等）の継続的支援を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 必要に応じて学友会会議・クラブサークル委員会等を開催し、各学生団体の活動支援を行った。</p> <p>②課外活動の本格的再開（コロナ 5 類移行）に合わせたルールの整備と、安心して取り組める支援を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 課外活動が活発化し、体育館等学内施設の利用が回復していることから、基本的な施設の予約ルールを定めるとともに、各団体の満足度向上に向けて、状況に応じた柔軟な対応も試みている。 また、昨今の環境変化に伴い夏季活動中の事故リスクがこれまで以上に高まっていることから、体育館に空調設備を導入するとともに、代表者会議において事故発生時の対応を重点的に指導している。</p> <p>③オリエンテーション等での SUMS ポイント制度の周知及び、ポータルサイトでの取得促進に向けた取り組みを実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ポイント付与対象の行事終了後にSUMSポイントを申請するよう積極的に促すことで認知度も高まり、申請数がかなり増加傾向にある。</p> <p>④学生・教職員が社会貢献・地域貢献活動へ参加できるよう継続的に支援する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各学科・専攻から選出されたボランティア委員とボランティア学生及び職員で4月～12月までに毎月1回（※8月は中止）の学外清掃を実施し、約100名の参加者による活動ができた。</p> <p>⑤学生の学内及び学外のボランティア活動への積極的参加を促す取り組みとサポートを実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ボランティア委員の教員より、各学科の学生に向けボランティ</p>

	<p>アへの参加呼びかけ等を行い学生のボランティア参加を促すとともに、ボランティア情報を送信する際にはチラシの添付やボランティア情報や締切日の明確化、参加フォームのリンク添付など学生が申し込みを行いやすいよう工夫した。</p>
--	---

## 第 1 - 4 期の活動計画の達成状況

重点分野 5 : 教職員の育成と人材確保																		
<p>【基本方針:4】 教職員の資質向上</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. SD 研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。</li> <li>2. 教職員評価において、教職員個々が業務遂行のための目標設定を行い、その目標を達成させるための仕組みづくりを検討する。</li> <li>3. 他の大学等と協同で、FD/SD 研修会を定期的に開催する。</li> </ol>																		
<p>責任者: 豊田学長 分担者: 鈴木秀幸 (法人事務局長)、村田尚久 (大学事務局長)、矢田智樹 (人事・厚生課長) 事務局: 人事・厚生課</p>																		
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度												
中期計画 1.	—					→												
中期計画 2.	—					→												
中期計画 3.	—					→												
2023 年度活動計画																		
対応する中期計画項目	活動計画内容																	
<p>1. SD 研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。</p>	<p>SD 研修にかかる年次計画を策定し、教職員の資質向上に必要な研修を計画的に実施する。</p> <p>○年次計画</p> <p>(1) 本学または連携大学が主催する研修</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">研修項目</th> <th style="width: 30%;">受講計画者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① コンプライアンス等のテーマ別 SD 研修会 (年 4 回) ※このうちの 1 回をハラスメント相談対応の研修とする。</td> <td style="text-align: center;">200 名/1 回</td> </tr> <tr> <td>② 連携大学との共同 FD/SD 研修会 (年 2 回)</td> <td style="text-align: center;">50 名/1 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 本学以外の機関または団体が主催する研修等への派遣</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">研修項目</th> <th style="width: 30%;">延べ受講計画者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 階層別などにより体系的に実施される外部機関または団体主催による集合研修</td> <td style="text-align: center;">10 名</td> </tr> <tr> <td>② 業務内容や職種に応じた必要な専門知識を習得するためのセミナー、講演会、研修などの実務研修</td> <td style="text-align: center;">30 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) OJT の継続実施</p> <p>経験豊富な職場の上司や先輩が、職場での実践を通じて若手職員や後輩を計画的に指導・教育、自己啓発の勧奨に取り組み、業務知識等を習得させ育成する。</p>						研修項目	受講計画者数	① コンプライアンス等のテーマ別 SD 研修会 (年 4 回) ※このうちの 1 回をハラスメント相談対応の研修とする。	200 名/1 回	② 連携大学との共同 FD/SD 研修会 (年 2 回)	50 名/1 回	研修項目	延べ受講計画者数	① 階層別などにより体系的に実施される外部機関または団体主催による集合研修	10 名	② 業務内容や職種に応じた必要な専門知識を習得するためのセミナー、講演会、研修などの実務研修	30 名
研修項目	受講計画者数																	
① コンプライアンス等のテーマ別 SD 研修会 (年 4 回) ※このうちの 1 回をハラスメント相談対応の研修とする。	200 名/1 回																	
② 連携大学との共同 FD/SD 研修会 (年 2 回)	50 名/1 回																	
研修項目	延べ受講計画者数																	
① 階層別などにより体系的に実施される外部機関または団体主催による集合研修	10 名																	
② 業務内容や職種に応じた必要な専門知識を習得するためのセミナー、講演会、研修などの実務研修	30 名																	

(4)新規採用教職員オリエンテーション  
 新規採用教職員に対し、各課から基本的な事務業務説明や講習を行う。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

**上記達成状況の具体的内容**

本学または連携大学が主催する研修会に、以下の通り教職員を参加させることができた。

**令和6年度研修会一覧**

開催日	研修内容	参加人数
令和6年6月	・第1回DX推進研修会 鶴岡信治 鈴鹿医療科学大学医用工学部医療健康データサイエンス学科 教授 ICT教育センター長) 「教育DXはどのように進めると良いか？」 - DX推進プロジェクト会議からの提言 -」	教員 103名 職員 50名
令和6年7月	・第2回DX推進研修会 鶴岡信治 鈴鹿医療科学大学医用工学部医療健康データサイエンス学科 教授 ICT教育センター長) 「DX推進事例:本学のペーパーレス化の推進について」 ・コンプライアンス研修会 村田尚久大学事務局長 (公的研究費に関するコンプライアンス推進責任者) 「令和6年度公的研究費の運営・管理に関わるコンプライアンス教育について」	教員 101名 職員 53名 教員 99名 職員 20名
令和6年8月	・ライフプラン研修 岩田絢子 株式会社三十三銀行営業本部営業推進部 上席主任 「お金の貯め方・殖やし方」	教員 133名 職員 48名
令和6年9月	・FD/SD講演会 小林美佐子 一般社団法人日本ポジティブ教育協会 「レジリエンス教育について-学生のレジリエンス力の正しい伸ばし方-」 奥田貴史 株式会社NTTファミリティーズ東海支店 「省エネの取り組みについて」	教員 168名 職員 51名
令和7年2月	・教職員全体研修会 山内浩美 広島大学ハラスメント相談室 准教授 専任相談員	教員 210名 職員 66名

	<table border="1" data-bbox="641 219 1407 551"> <tr> <td data-bbox="641 219 746 353"></td> <td data-bbox="746 219 1233 353">「ハラスメントについて見聞き・相談されたときの対応」</td> <td data-bbox="1233 219 1407 353"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="641 353 746 551">令和 7 年 3 月</td> <td data-bbox="746 353 1233 551">・私学連携協議会みえ FD・SD 交流事業 植村礼大 俵法律事務所 弁護士 「カスタマーハラスメントに対する方針・対応・対策」</td> <td data-bbox="1233 353 1407 551">教員 4 名 職員 53 名</td> </tr> </table> <p data-bbox="619 589 1407 757">         本学以外の機関または団体が主催する研修等への参加については、延べ 71 名の教職員が参加した。          また、新規採用教職員オリエンテーションとして、令和 6 年 4 月採用の教職員 14 名に対し、各事務局からの説明と学内システム講習を行った。       </p>		「ハラスメントについて見聞き・相談されたときの対応」		令和 7 年 3 月	・私学連携協議会みえ FD・SD 交流事業 植村礼大 俵法律事務所 弁護士 「カスタマーハラスメントに対する方針・対応・対策」	教員 4 名 職員 53 名
	「ハラスメントについて見聞き・相談されたときの対応」						
令和 7 年 3 月	・私学連携協議会みえ FD・SD 交流事業 植村礼大 俵法律事務所 弁護士 「カスタマーハラスメントに対する方針・対応・対策」	教員 4 名 職員 53 名					
<p data-bbox="225 790 587 958">2. 教職員評価において、教職員個々が業務遂行のための目標設定を行い、その目標を達成させるための仕組みづくりを検討する</p>	<p data-bbox="619 790 1407 1093">           ・コンサルティング会社を活用し、時代に即した新たな人事制度の構築に向けて検討を進める。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            コンサルティング会社と新人事制度の構築に向けた打ち合わせを計 11 回行った。今後は当該課題を早急に解決し、関連規程の作成や賃金・諸手当の設計等の検討に入る。            職員の基本設計(案)は、ほぼ出来上がったが、教員については、いくつかの検討課題が残った。         </p>						
<p data-bbox="225 1126 587 1216">3. 他の大学等と協同で、FD/SD 研修会を定期的に開催する</p>	<p data-bbox="619 1126 1407 1462">           私学連携協議会みえ及び高等教育コンソーシアムみえの連携校と情報共有を図り、各連携校で開催される FD/SD 研修会に教職員を積極的に参加させる。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            令和 6 年度研修会一覧のとおり、私学連携協議会みえの FD/SD 合同研修会に教職員を参加させることができた。ただし、高等教育コンソーシアムみえについては、FD/SD 研修が開催されなかったため、参加には至らなかった。         </p>						

### 第1-4期の活動計画の進捗状況

重点分野6：研究活動の活性化を通じた社会貢献						
<p>【基本方針:3】            本学の特色を生かした研究を通じての社会貢献</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西洋医学と東洋医学の知識と技術（代替医療）を融合した統合医療研究を推進するための研究活動への資源配分</li> <li>2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備</li> <li>3. 研究活動推進のための外部資金の獲得</li> <li>4. 研究倫理の確立と厳正な運用</li> <li>5. 産学官連携研究活動の推進</li> </ol>						
責任者:鈴木宏治（大学院・研究担当副学長、社会連携研究センター長） 分担者:水井 智子（研究振興課長） 事務局:研究振興課						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	—					→
中期計画 2.	—					→
中期計画 3.	—					→
中期計画 4.	—					→
中期計画 5.	—					→
中期計画 6.	—					→
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 西洋医学と東洋医学の知識と技術（代替医療）を融合した統合医療研究を推進するための研究活動への資源配分	<p>①SUMS 学科横断的共同研究の推進【研推】</p> <p>◆学部・学科横断的な共同研究への研究費助成を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2023年10月～2024年1月に公募し、応募した3課題について研究実施委員会及び社会連携研究センター運営委員会委員による評価に基づき、2024年3月の運営協議会で審議し、下記の3課題が第3回研究助成対象として採択された。</p> <p>(1) 研究代表者：西岡 淳二            (保健衛生学部・臨床検査学科・教授)            研究課題:変形膝関節症の骨膜病変発生における線溶系制御因子 SERPINA5 関与の検証            研究期間：2024年4月～2025年3月            助成金：870千円</p> <p>(2) 研究代表者：平井 聡子            (保健衛生学部・救急救命学科・助教)            研究課題：子を持つ乳がんサバイバーの語りから横断的</p>					

	<p style="text-align: center;">に探る当事者に向けたポトフォリオの構築</p> <p>研究期間：2024年4月～2025年3月 助成金：460千円</p> <p>(3) 研究代表者：大和田 均 (保健衛生学部・救急救命学科・准教授) 研究課題：従来のCPRとヘッドアップCPRの質の比較と評価 - 心停止傷病者の社会復帰率の向上へ向けての基礎的研究 -</p> <p>研究期間：2024年4月～2025年3月 助成金：670千円</p> <p>◆採択された研究課題はホームページに掲載する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2024年度第3回SUMS学科横断的共同研究費の助成対象者が決定した旨、大学ホームページに掲載し公表した。なお、2024年度は3課題が採択された。 <a href="https://www.suzuka-u.ac.jp/archives/19810">https://www.suzuka-u.ac.jp/archives/19810</a></p> <p>◆学部・学科横断的共同研究支援事業の問題点を改善し、内容の充実を図る。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2024年11月に第3回研究助成課題の達成状況と問題を調査した結果、特に改善すべき点は見当たらなかった。</p>
<p>2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備</p>	<p>①研究環境の整備と適切な運営・管理【研推・社セ】</p> <p>◆三重県薬事工業会と連携協力に関する包括協定を締結し、協働の取り組みを推進することにより、薬事工業会会員企業の発展並びに地域活性化に資するとともに、本学の学術研究及び教育活動の活性化を図る。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2024年5月21日、本学と三重県薬事工業会は連携協力に関する包括協定を締結し、今後の連携活動について検討を進めている。</p> <p>(1) 三重県薬事工業会・鈴鹿医療科学大学 第1回連携活動検討会議 日時：2024年10月30日(水)15時30分から 場所：鈴鹿医療科学大学白子キャンパス1号館会議室</p> <p>(2) 三重県薬事工業会・鈴鹿医療科学大学薬学部 新設学科カリキュラムに係る打ち合わせ会議 日時：2024年11月19日(火)13時30分から 場所：zoomを用いた遠隔会議</p> <p>(3) 三重県薬事工業会・鈴鹿医療科学大学 第2回連携活動検討会議 日時：2025年2月19日(水)10時から 場所：鈴鹿医療科学大学白子キャンパス1号館会議室</p> <p>◆松阪市内の異業種6社から成る医療機器分野への進出を目指す企業間連携・共創チーム「松阪メディカルメンバーズ(MMM)」</p>

	<p>と連携して共同研究を進めるための環境整備を図る。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2023年3月にMMMによる学内展示会を開催し、約80名の教職員、学生が参加した。この実績を背景に、MMMと本学とで連携協定を締結する話で纏まりかけたが、三重県薬事工業会が本学との連携協定を締結することが先決事項となり、2024年5月21日、本学と三重県薬事工業会は連携協力に関する包括協定を締結した。このことによりMMMとの連携を検討して行く。</p> <p>◆SUZUKA産学官交流会の下部組織として、医薬品・医療機器の開発を目指す「鈴鹿メディカルグループ(SMG)」と連携し、共同研究を進めるための環境整備を図る。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>本学教員のシーズと企業・消費者のニーズをマッチングさせて、新商品の開発を目指すことを趣旨とした鈴鹿メディカルグループ(通称「SMG」)研究会を設立した。</p> <p>2024年度は、5・7・9・10・11・12・2月に研究会を開催し、ラムナン硫酸を活用した製品開発などについて検討している。</p>
<p>3. 研究活動推進のための外部資金の獲得</p>	<p>①科研費等の競争的外部資金を獲得するための具体的方策の取り組み【研推】</p> <p>◆科学研究費などの外部資金の獲得増大を図るため、採択経験豊富な教員による、計画書の作成方法等に関する研修会を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2024年7月24日、西田圭吾教授(薬学科)を講師とし、採択されやすい計画書の作成について講演会(オンライン)を開催した。2025年度科研費申請件数は94件であった。</p> <p>◆国内の研究振興財団や民間企業等からの研究費助成の公募案内を全教員にメール等で周知し、研究費助成金を獲得する体制を整える。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>国内の研究振興財団や民間企業等から公募案内のあった研究助成金制度について全教員メーリングリストに送信し周知させた。</p> <p>②ホームページで教員の研究成果や取組事例の紹介【研推、社セ】</p> <p>◆教員の研究成果を大学ホームページで随時紹介し、研究活動に関する広報を充実させる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>ホームページに以下の研究成果、取組事例等を公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研究成果内容の紹介(6件)</li> <li>・研究成果に対する受賞者の紹介(教員0名、大学院生2名)</li> <li>・SUMS学科横断的研究助成対象課題(3課題)</li> <li>・2024年度科研費採択課題一覧(14課題)</li> </ul>

<p>4. 研究倫理の確立と厳正な運用</p>	<p>①研究倫理に関する体制整備【研推】</p> <p>◆最新の研究倫理に関する諸規程を随時紹介し、学内の臨床研究倫理審査委員会と連携して研究倫理の理解向上と研究支援体制の整備を図る。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2024年度は研究倫理審査の持ち回り審査を電子媒体に変更し、審査時間の短縮を図った。</p> <p>②研究倫理の厳正な運用【研推】</p> <p>◆毎年度の「研究倫理に関する研修会」の受講を推奨する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>三重大学臨床研究開発センターのeラーニングサイトで研究倫理に関する研修会の資料を受講するよう推奨した。</p>
<p>5. 産学官連携研究活動の推進</p>	<p>①ホームページで教員の産学官連携研究活動の成果や取組事例の紹介【社セ】</p> <p>◆教員の研究成果を大学ホームページで随時紹介し、研究活動に関する広報を充実させる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>ホームページに以下の研究成果、取組事例等を公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研究成果内容の紹介(6件)</li> <li>・研究成果に対する受賞者の紹介(教員0名、大学院生2名)</li> <li>・SUMS 学科横断的研究助成対象課題(3課題)</li> <li>・2024年度科研費採択課題一覧(14課題)</li> </ul> <p>②外部の産学官連携活動への参加による学内の研究活動情報の積極的発信</p> <p>◆外部機関等による産学官連携活動に積極的に参加し、学内の研究活動情報の発信に努める。【社セ】</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2024年度は以下のイベントに参加した。</p> <p>第53回合同産学官交流フォーラム  日時：2025年3月10日(月)15時から18時  場所：ホテルグリーンパーク鈴鹿</p> <p>◆みえメディカルバレー構想、みえLIP等の活動に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。【社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>研究担当副学長がみえメディカルバレー企画推進会議会長として参加し、広報活動を推進した。また、みえLIP関連会議に本学研究担当副学長、研究振興課長が参加し、研究成果を発信した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) みえメディカルバレー企画推進会議  日時：2025年2月19日(水)15時から  場所：勤労者福祉会館</li> <li>(2) みえメディカルバレー推進代表者会議  みえライフイノベーション総合特区地域協議会  日時：2025年3月17日(月)10時から  場所：プラザ洞津</li> </ol>

	<p>◆SUZUKA 産学官交流会の活動に参加し、学内の研究成果等を積極的に発信し、地域企業等との共同研究を推進する。【社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>SUZUKA 産学官交流会に、本学研究担当副学長が理事、研究振興課長が事務局役員として、会の運営に携わった。</p> <p>以下の企業との共同研究が 2018 年から継続して行われ、学術論文として公表している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江南化工株式会社（四日市市）との共同研究 共同研究者：鈴木 宏治 教授（薬学部・薬学科）</li> </ul> <p>◆三重大学との包括的連携協定に基づき、両校間の共同研究を推進する。【社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>各学科の複数の教員が三重大学教員との共同研究を進めており、引き続きこれを推進していく。</p> <p>◆鈴鹿工業高等専門学校との学術協定に基づき、医工連携研究会を毎年開催し、両研究機関の共同研究を推進する。【社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>SUMS-NITS 医工連携研究会は毎年 2 回開催しており、今年度は以下のとおり開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 16 回:2024 年 10 月 17 日(木) 16 時 30 分～18 時 15 分(Zoom) 講演 1：橋本 良介 NITS・電気電子工学科・准教授 「磁性ナノ粒子の可能性と今後の展開」 講演 2：野口 佑太 SUMS・保健衛生学部・リハビリテーション学科・助教 「地域在宅高齢者の運転寿命延伸に向けた挑戦」</li> <li>・第 17 回：2025 年 3 月 5 日(水) 16 時 30 分～18 時 10 分 開催場所：鈴鹿工業高等専門学校 講演 1：定金 豊 SUMS・薬学部・薬学科・教授 「光化学的技術を利用した新たな方法論の開拓」 講演 2：板谷 年也 NITS・電子情報工学科・准教授 「新規非侵襲生体センシングへの非破壊検査技術の応用」</li> </ul> <p>【共同研究事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラズマ放電の産業応用への共同研究 SUMS：中山 浩伸 教授／NITS：横山 春喜 教授</li> <li>・交流電磁場のバイオフィルム抑制効果を利用した感染制御装置開発のための基礎研究 SUMS：三浦 英和 准教授／NITS：兼松 秀行 教授</li> <li>・看護理工学による看護実習の遠隔教育支援システムに関する研究 SUMS：河尻 純平 准教授、林 暁子 助教／NITS：伊藤 明 教授</li> <li>・乳児に行う新たな胸骨圧迫</li> </ul>
--	--

	<p>SUMS：神藏 貴久 教授／NITS：伊藤 明 教授</p> <p>◆鈴鹿病態薬学研究会を毎年開催し、学外研究者との交流と共同研究を推進する。【社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>鈴鹿病態薬学研究会は概ね年2回開催しており、今年度は以下のとおり開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第22回：2024年9月20日（金）17時から 白子キャンパス1号館講義室（対面/ZOOMハイブリッド形式） 講師：古田 和幸 准教授 （岡山大学・学術研究院・医歯薬学域（薬学系）・分子生物学分野）</li> <li>・第23回：2025年3月3日（月）17時から 白子キャンパス1号館講義室（対面/ZOOMハイブリッド形式） 講師：小亀 浩市氏 （国立循環器病研究センター・分子病態部部長）</li> </ul> <p>◆学内の研究成果等について、企画広報課と連携し積極的に学外メディアを活用した情報発信を行う。【研推、社セ】</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディア <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年5月23日（木）中日新聞 夕刊（1面）</li> <li>令和6年5月24日（金）中日新聞 朝刊（三重版）</li> <li>※5/23 夕刊再掲</li> <li>令和6年9月16日（月・祝）伊勢新聞 朝刊（1面）</li> <li>令和6年9月17日（火）中部経済新聞「三重県産学官連携特集」</li> <li>※記事体広告</li> </ul> </li> <li>・掲載内容 <p>本学保健衛生学部リハビリテーション学科野口佑太助教と中勢自動車学校などとの産学連携で、高齢者ドライバーの身体・認知機能を鍛えることで「運転寿命」を延伸するプログラムを考案</p> </li> </ul>
--	---

## 第 1 - 4 期の活動計画の達成状況

重点分野 7 : 国際交流の推進						
<p>【基本方針:2】 留学生の確保</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 留学生受入れのための体制整備</li> <li>2. 留学生の受入れから管理全般を担当する専門部署の設置</li> <li>3. 国際交流事業の実施</li> <li>4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充</li> </ol>						
<p>責任者: 高木久代 (国際戦略担当副学長)</p> <p>分担者: 永坂哲 (国際交流センター長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)</p> <p>事務局: 就職・キャリア支援課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					→
中期計画 2.		—				→
中期計画 3.		—				→
中期計画 4.	—					→
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 留学生受入れのための体制整備	<p>①施設の整備</p> <p>◆2023 年度末に整備した国際交流センターの物理的な面を含め充実を図る</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>現状では国際交流センター室の設置の完了で充足していると考えますが、さらに英語母国語、中国母国語である教員を加え、留学生の受け入れ、その後の対応を強化していく。</p>					
2. 留学生の受入れから管理全般を担当する専門部署の設置	<p>①留学生の受け入れから管理まで一元的に行う部署の設置に伴い、専門的に対応する人材に関して検討する。</p> <p>◆現在は就職・キャリア支援課が国際交流センターを兼任しているが、状況を精査し、専門部署の設置・人材に関し検討する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>留学生の数から考え、状況的にまだその段階ではなく、現状のままで十分と考えるが、さらなる対応を考える必要がある。</p>					
3. 国際交流事業の実施	<p>①国際交流事業の展開</p> <p>◆教員レベルでつながりのある大学等を一つの切り口とした国際交流の機会を捉え、更なる国際提携を広めていく。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p>					

	<p>現在、プーケットラジャバット大学との協定に向けて準備を進めている。また、他の中国の大学との提携も視野にいれ、協議を進めている途中である。</p> <p>◆国際的視野の重要性、つまり固定観念にとらわれない柔軟な視野(考え方)を身につけることで、一個人の協調性の向上につなげる。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  国際交流に関する事項の意識は浸透しつつあると考えられる。</p>
<p>4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充</p>	<p>①既に海外研修を実施している学科については交流の継続に加え、魅力発信を試みる。  ◆海外交流を行った学生の体験を広報誌・ホームページ等に掲載する。  ■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  広報誌・ホームページに掲載済みである。  また、交流についてはズーム等の手段で海外のとの会議、学習会を行っている。日本薬膳学会学術総会では中国全土の希望者に対しズームにおいて同時翻訳でライブ中継した実績があることから活用していきたい。</p> <p>②学生の国際交流が未実施である学科に対し支援を推進する  ◆国際交流センター運営委員会を通じ、支援策を検討していく。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  運営委員会における情報交換や、学生の海外研修における保険制度の提案など徐々にではあるが進められている。</p>

## 第 1 - 4 期の活動計画の達成状況

重点分野 8 : 信頼性の高い事業継続可能な組織体制の改革						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:4】 教職員の資質向上</p> <p>【基本方針:7】 大地震など災害への備え</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実効性のある中期的な計画の策定・実行・評価 (PDCA サイクル) による大学価値向上と確実に推進するため、教員と事務職員等が、教職協働体制のレベルアップを図る。</li> <li>2. 危機発生時における体制の整備と、BCP を含めた各種マニュアルの更新を行う。</li> <li>3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る。</li> </ol>						
<p>責任者: 豊田長康 (学長)</p> <p>分担者: 鈴木秀幸 (法人事務局長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、大畑太 (学生課長)、矢田智樹 (人事・厚生課長)、辻 紀子 (企画広報課長)、防災危機管理対策委員会</p> <p>事務局: 学生課、人事・厚生課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					→
中期計画 2.	—					→
中期計画 3.	—					→
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 実効性のある中期的な計画の策定・実行・評価 (PDCA サイクル) による大学価値向上と確実に推進するため、教員と事務職員等が、教職協働体制のレベルアップを図る</p>	<p>中期計画・活動計画達成状況の自己点検・評価及び外部評価に基づき、PDCA サイクルの質を向上させる。</p> <p>【大学事務局に関すること】</p> <p>① DX の実質化に向けて、具体的な取組みを構築し、教職員と学生を対象に標準化させる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>教職員向けの DX 推進研修会を 2 回 (6 月 27 日、7 月 11 日) に実施し、「DX は経費削減だけでなく、教育効果が期待される」という教育効果について説明した。学生にも意識改革に関する案内をし、学内の無料プリンター廃止を 9 月から実施している。また、職員向けのスモール DX 事例発表会を発案し、総申請者数は 39 名で、提出された事例は 25 件あつた。審査は 19 名の審査員によって行われ、その結果をもとに学長が選抜し、11 件の事例に学長賞を授与した。この事例発表会と表彰式は 11 月 11 日に行った。今後も教職員および学生向けに対して DX の実質化を進めていく。</p> <p>② 「鈴鹿医療科学大学 内部質保証体制図」に基づく活動内容を</p>					

	<p>検証し、課題発見とその改善を行いブラッシュアップしていく。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>各学科・専攻の教育質保証委員会を中心に、学修困難な学生の把握と支援状況を、月例報告として教育改革委員会に報告する仕組みを徹底した。また、学生支援に関する課題を解決することを目的とした専門家チームとして「大学・学生支援検討チーム」を設置し、学生支援活動に対して迅速に助言・指導を行う体制を整えた。</p>
<p>2. 危機発生時における体制の整備と、BCPを含めた各種マニュアルの更新を行う</p>	<p>①危機発生時における体制 及び、マニュアル等の整備を行う。  具体的には、学内体制や手順・役割分担などの明文化の他、事象毎のマニュアル作成、安否確認システムの整備 及び、訓練（試行テスト）を実施する。（学生課）</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>BCPに関しては既にマニュアル化され、本学ホームページ（学内専用コンテンツ）に掲載済みであり閲覧可能となっている。その他、事象ごとのマニュアルの作成・見直しについては、防災・危機管理対策委員会を構成する各部門の危機管理委員会において進められており、3月4日開催の防災・危機管理対策委員会（全体会）で情報共有がなされ、進捗状況の確認を行った。</p> <p>②教職員及び学生に対し、安否確認システムによる安否確認を複数回実施し、発信 2 時間後の回答率を 80%以上にする。（人事・厚生課）</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>教職員及び学生に対し、安否確認システムによる安否確認を 2 回実施した。2 時間後の回答率はそれぞれ 36.2%（教職員 75.5% 学生 31.1%）、46.1%（教職員 81.2% 学生 41.5%）という結果であった。教職員については、ほぼ達成しているが、学生の回答率が低いため、安否確認システムの周知を徹底し、訓練を重ねることで回答率の向上を図っていく。</p>
<p>3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る</p>	<p>ハラスメント相談に対応するための「スキル」や「心構え」について研修し、窓口担当者のもとより、事務組織全体のレベルアップを図る。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2025 年 2 月に教職員全体研修としてハラスメント相談の流れ、対応についての研修会を開催した。当日参加できなかった者についても録画視聴を手配したが、録画視聴を含めた参加率は 94.8% であり、100%に達することはできなかった。今後もハラスメントに起因する問題が生じた場合に、迅速・適切に対応できるよう、ハラスメント相談に対応するための研修会を開催していく。</p>

## 第 1 - 4 期の活動計画の達成状況

重点分野 9 : 財務基盤の充実						
<p>【基本方針:全体】 経営体制の充実・強化、財務基盤の充実、補助金等の外部資金の獲得</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証</li> <li>2. 教育設備・研究設備等に関する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証</li> <li>3. 研究に関する補助金や大学のシーズを活用した外部資金の獲得のための取り組みの実行と検証</li> <li>4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証</li> </ol>						
<p>責任者:鈴木秀幸(法人事務局長) 分担者:辻井悦生(管財課長)、岩田善光(経理課長)、水井 智子(研究振興課長)、 経費削減推進委員会 事務局:経理課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	—					▶
中期計画 2.	—					▶
中期計画 3.	—					▶
中期計画 4.	—					▶
中期計画 5.	—					▶
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証	<p>重点分野 1 : 大学拡充計画の推進や重点分野 2 : 大学広報の強化と入学者受け入れの改善の計画を進め、学納金収入の増加を検討する。(前年度比 100%以上を目標とする)</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 前年度とほぼ同額の収入(前年度比 98.5%)で推移した。</p>					
2. 教育設備・研究設備等に関する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証	<p>①学科ごとの教育設備における中長期計画内容の共有化</p> <p>◆学科予算打ち合わせ時における各学科からの「今後 6 年間における学科内教育設備整備計画」の見直し及び共有化</p> <p>■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 中期計画(6年間)の見直しの実施(補助金対象設備の選定)(各学科への予算通知 2024.5)</p> <p>②各学科の中期計画に則った教育設備に対する補助金や ICT などの施設設備に対する補助金の募集状況に応じた申請を行う</p> <p>◆上記「学科内教育設備整備計画」に基づき申請予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育装置(放射線)画像読影・処理・サーバーシステム</li> <li>・研究設備(薬学)共焦点レーザー走査型顕微鏡</li> <li>・施設環境改善整備(空調設備等工事)熱中症対策、老朽化空調</li> </ul>					

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育装置（放射線）画像読影・処理・サーバーシステム 申請（2024. 6）、決定（2024. 10）、現在構築中（2024. 3 完了予定）</li> <li>・研究設備（薬学）共焦点レーザー走査型顕微鏡 申請（2024. 6）、決定（2024. 10）、現在構築中（2024. 3 完了予定）</li> <li>・施設環境改善整備（空調設備等工事）熱中症対策、老朽化空調 申請（2024. 2）、決定（2024. 4）、完了（2024. 7）</li> </ul>
<p>3. 研究に関する補助金や大学のシーズを活用した外部資金の獲得のための取り組みの実行と検証</p>	<p>① 教員の研究活動に資するための財務基盤として、大学の研究シーズを活用した研究補助金、受託・共同研究費、寄附金等の獲得</p> <p>◆教員の研究成果や取組事例等を積極的にホームページで紹介する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>ホームページに以下の研究成果、取組事例等を公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研究成果内容の紹介（6件）</li> <li>・研究成果に対する受賞者の紹介（教員0名、大学院生2名）</li> <li>・SUMS 学科横断的研究助成対象課題（3課題）</li> <li>・2024年度科研費採択課題一覧（14課題）</li> </ul> <p>◆産学官連携イベントに積極的に参加し、学内の研究成果等を発信する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2024年度は、本学研究担当副学長がみえメディカルバレー企画推進会議会長として参加し、広報活動を推進する。また、みえLIP関連会議に本学研究担当副学長と研究振興課長が参加し、研究成果を発信する。</p> <p>(1) みえメディカルバレー企画推進会議 日時：2025年2月19日（水）15時から 場所：勤労者福祉会館</p> <p>(2) 第53回合同産学官交流フォーラム 日時：2025年3月10日（月）15時から18時 場所：ホテルグリーンパーク鈴鹿</p> <p>(3) みえメディカルバレー推進代表者会議 みえライフイノベーション総合特区地域協議会 日時：2025年3月17日（月）10時から 場所：プラザ洞津</p> <p>◆学内の研究成果等について、企画広報課と連携し積極的に学外メディアを活用した情報発信を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディア 令和6年5月23日（木）中日新聞 夕刊（1面） 令和6年5月24日（金）中日新聞 朝刊（三重版） ※5/23夕刊再掲 令和6年9月16日（月・祝）伊勢新聞 朝刊（1面） 令和6年9月17日（火）中部経済新聞「三重県産学官連携特集」 ※記事体広告</li> <li>・掲載内容</li> </ul>

	<p>本学保健衛生学部リハビリテーション学科野口佑太助教と中勢自動車学校などとの産学連携で、高齢者ドライバーの身体・認知機能を鍛えることで「運転寿命」を延伸するプログラムを考案</p>
<p>4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証</p>	<p>①経費削減推進委員会の活動対象を、従来の省エネルギーに関する活動以外に、事務局のコピー機利用削減（ペーパーレス化）を目標とした活動を加える（全体枚数、カラーコピー枚数前年比5%削減を目標）  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  コピー枚数減は対前年▲19.8%減  カラーコピー枚数減は対前年比▲5.9%減  ペーパーレス会議室の構築（応接C、2202 会議室）(2024.10)</p> <p>②施設関係（千代崎・白子キャンパス）  令和6年度の電気使用量は令和5年度電気使用量より1%削減  省エネ行動の徹底及び照明LED化、高効率空調機への更改  ◆省エネルギー意識向上のための講演会の開催（年1回）  <input type="checkbox"/> 達成(100%) <b>■ほぼ達成(実行中・80%)</b> <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  エネルギー削減に努めたが、外気温の上昇による空調（冷房）運転時間の長時間化が要因で目標達成が出来なかった。  ・R6年度の電気使用量はR5年度より0.7%増（2025.3末）  （理由）10月の冷房運転の増（16.6%増）が影響  ・千代崎B講義棟共用部及び白子1号館共用部のLED化の実施（2025.1）  ・千代崎図書館V期、健康管理センター、大学院棟2566室、管理棟及び白子5号館1階、食堂棟空調更改の実施（2024.6、7、9、12、2025.1完了）  ・全教職員への省エネルギー講演会の実施（2024.9）  ◆サムスエコ通信の発信（年6回）  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  各月（5、7、9、11、1、3）に教職員全員に配信  ◆新たな経費削減メニューの提案（令和6年10月）  <input type="checkbox"/> 達成(100%) <b>■ほぼ達成(実行中・80%)</b> <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  DX提案にてペーパーレス会議室（応接C、2202 会議室）を構築（2024.11）削減効果は未定</p> <p>③経費削減意識の向上を目的とした活動の継続的実行  ◆未使用講義室の消灯及び空調停止確認による電気使用量削減（チェック表による確認）  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  千代崎の守衛及び白子防災センター員による消灯、空調機停止の確認依頼  （管財課）東洋医学研究所の省エネネットロールの実施（毎日実施）  ◆電気使用量実績共有による節電意識の向上（月毎の使用実績の共有）  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  経費削減推進委員会での電気使用量（電気料金）の共有を実施</p>

	<p>◆千代崎キャンパスへの太陽光導入検討（令和6年度内実施予定） □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 太陽光導入は設置場所及びコスト等検討した結果見送り (2024.11) 災害対策室は場所も含めて再検討</p>
--	--

## 第1-4期の活動計画の達成状況

重点分野 10：4つのポリシーの実質化						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <p>1.4つのポリシーの運用に関するPDC Aサイクルの仕組みを実行する。 2.ディプロマポリシーの達成度をチェックし、向上させる仕組みを実行する。 3.各学科のアセスメントポリシーに基づいて、自己評価委員会を通して点検・評価し改善する。</p>						
<p>責任者:豊田長康(学長) 分担者:教育改革委員会、教育質保証委員会 事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	—					▶
中期計画 2.	—					▶
中期計画 3.	—					▶
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 4つのポリシーの運用に関するPDC Aサイクルの仕組みを実行する</p>	<p>①教育目標を踏まえたディプロマポリシーと共に4つのポリシーを学生に周知する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      学生要覧やカリキュラムマップを基に、新入生にはオリエンテーションで、在学生にはガイダンスや個人面談の際に、担任教員から、ディプロマポリシーとの一貫性について説明している。ホームページにカリキュラムマップを掲載することで、教員や学生がいつでも自学科のカリキュラムマップを確認できるようにした。                      さらに、新規に導入した教務システム(A-Portal)は学修成果の可視化に優れた機能を有しているため、様々な視点で正課を確認できるようになった。特に、A-Portalの「科目学修の進捗」の画面では、学生自身がカリキュラムマップや、ディプロマポリシー毎の成績達成度が確認でき、履修科目がどのディプロマポリシーに関連しているか把握できる。今後は、全教員、全学生に対し、A-Portalでこれらの情報を確認できることを周知徹底することが重要である。</p> <p>②内部質保証体制図に基づき、4つのポリシーと教育課程との整合性を教育質保証委員会が点検し、教育改革委員会へ状況を報告する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      各学科の教育質保証委員会は、11月と3月の年2回、学修成果を基に学科の教育課程との整合性に関する報告書を提出し、教育</p>					

	<p>改革委員会は提出された報告書を確認し、審議した結果を、各学科の教育質保証委員会へ、報告・指摘するシステムを今年度も実行している。</p>
<p>2. ディプロマポリシーの達成度をチェックし、改善点を検討する。</p>	<p>①卒業予定者に、学修成果に関する達成度を測定するアンケートを実施し、蓄積している調査結果と併せて分析し、改善点等について、教育質保証委員会で検討する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  卒業時に「学修成果に係る自己評価」アンケートを実施しており、毎年回答率は85%以上に達している。このアンケートでは、80%以上の卒業生が「達成している」「ほぼ達成している」と回答していることが確認されている。アンケート結果はホームページで公開し、卒業生へ周知するとともに、教育質保証委員会を中心に改善点を検討している。  2024年度の卒業生における回答率は92.3%に達し、そのうち90%以上が「身につけている」と回答しているため、2025年度に向けてはさらなる向上を目指す。</p> <p>②卒業生及び卒業生の就職先等へ調査した結果を基に、ディプロマポリシーの達成度をチェックし、教育改善へ反映を図る。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  以下の内容で調査した結果を教務委員会で確認し、検討した。また、就職委員会で検討する予定である。  (2020年度卒業生対象) 発送：令和6年8月5日、回答締切：9月30日、発送数：530、回答数：63、回収率：11.9%  (卒業生の就職先対象) 発送：令和6年8月27日、回答締切：9月30日、発送数：272、回答数：149、回収率：54.8%  調査結果からは、就職先側が学生に求める「コミュニケーション能力」の項目が、本学卒業生では高く、一定の教育効果が達成できていると評価した。一方、問題解決力やリーダーシップといった「組織の中で必要とされる高次の人間力」が、本学卒業生に求められていた。この結果に基づいて、「問題解決力」、「リーダーシップ」を涵養するための教育の強化を計画する。</p> <p>③教育質保証委員会は、年度末に教育方針の改善点等について纏め、教育改革委員会へ報告する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  教育方針の改善点等について、今年度も4月に教育質保証委員会から教育改革委員会へ報告され、教育改革委員会で確認作業を実行した。</p>
<p>3. アセスメントポリシーについて、教育質保証委員会を通して確認する。</p>	<p>①新規導入した教務システムの機能を活用し、学生自らが、学修行動を振り返り、立ち位置を確認し、教育質保証委員会を通して、主体的な学習を促すための仕組みを構築したが、学生に周知を徹底し、活用率100%を目指す。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  新教務システム(A-Portal)は、昨年度8月に導入され、1年半が経過した。A-Portalは学修ポートフォリオをはじめとする学修成果の可視化に効果的であり、同システムを活用した学修成果の記録と学生・教員間の共有の取り組みを開始した。  各学生のポータルサイトでは、GPAによる成績が表示され、ク</p>

	<p>ラス内での自身の順位を確認できる。また、ディプロマポリシー毎の到達度がレーダーチャート図で確認できる。</p> <p>さらに、科目達成度の自己評価を授業評価と同時に実施することで、科目達成度の回答率を向上させ、自己評価と成績の比較を可視化し、学生に周知した。今後は活用率 100%を目指す。</p> <p>②反転授業の推進、オンライン環境下での試験実施方法の開発など新たな学修評価の在り方を開発する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>基礎学力養成教育を意識したリメディアル教育は「医療人底力教育センター」内に 2022 年度から組織し運営している。遠隔会議システム Zoom や動画などを活用した反転授業用教材を事前・事後学習に役立てるため、全教員および全学生が利用できるよう、learningBOX の活用体制を整備しました。その結果、82%の教員が教材を learningBOX にアップロードするなど、積極的に活用している。</p> <p>さらに、learningBOX を用いたオンライン定期試験を導入し、自動採点機能を活用することで、300 人を超える履修者がいる科目でも少人数の教員で対応可能な仕組みを構築した。</p>
--	--

## 第 1 - 4 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（放射線技術科学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者：放射線技術科学科長            分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、松永ひとみ（大学事務局部長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松原奈未（教務課長）            事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育環境の充実               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則した学内実習を実施し教育内容を充実化する。そのために、計画的な機器の更新・管理運用を行う。令和 6 年度には、診療画像読影システムの構築を目指す。                    ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)                    上記達成状況の具体的内容                    令和 6 年度私立学校施設整備補助金取得により次世代型医療画像教育システムを導入</li> <li>② 学生の自己学修時間や場所の確保等について環境整備をする。                    □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)                    上記達成状況の具体的内容                    コロナが 5 類になったことから個々のスペースは少ないが確保できた。</li> </ol> </li> <li>2. 質の高い臨床実習を実現するため、改善点として以下を計画する。               <ol style="list-style-type: none"> <li>① オンラインミーティングシステム（ZOOM）を活用し、全臨床実習指導施設（約 70 施設）を対象とした臨床実習報告会お</li> </ol> </li> </ol>					

	<p>よび次年度臨床実習説明会をそれぞれ年に1回開催する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  年に3回開催  3月6日に53施設133名、  8月28日に50施設93名、  10月10日に56施設106名の参加者を得て行った。</p> <p>② 2年次5月に臨床実習希望施設調査を行うとともに教員との協議面談等を経て臨床実習指導施設を仮決定する  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  教員が手分けをして学生が希望する施設に仮決定した。</p> <p>③ 3年次学内実習においては対面で行い、年度末に学内教員により対面での実技試験(OSCE)を導入する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  前期・後期とも実習は対面で行うことができた。  知識確認試験並びに実技試験は10月末に行った。</p> <p>④ 臨床実習中、毎日の適度な目標設定とポジティブフィードバックおよびリフレクションを促す独自の「臨床実習ノート(ポートフォリオ)」を作成し、効果的な経験学習を促進する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  学科独自の臨床実習ノートを活用。</p> <p>3. 教授方法のさらなる改善  ① 学修サポートシステムの教員活用を進める。特に今年度は、Learning Box等のeラーニングを用いた予習復習支援教材を導入する。2024年度は専門科目の90%以上で導入することを目指す。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  Learning BoxやA-Portalの課題管理を利用して行った。</p> <p>② すべての演習・実習科目においてルーブリックを評価尺度として用い、総合評価に反映させる。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  新任の教員も含めすべてに用いた。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 1年次の早期に臨床等で専門の資格を持って活躍、あるいは社会人大学院生として活躍する診療放射線技師と接する機会をつくり、将来のキャリアデザインを描く手がかりとする。医療人底力実践基礎I学科プログラムにて企画する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  現役診療放射線技師4名を特別講師として招き行った。</p> <p>2. 初期教育の一環として専門職にふさわしい態度等を学ぶ機会をつくる。マナー・ノンテクニカルスキル教育を2-3年生対象に実施する。特に、学内実験実習においては、必ず取り組む。</p>

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学内実習において取り組めた</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 目標値 受験者あたりの合格率 95% HR21 年入学生あたりの合格率 80% □達成(100%)■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) (国家試験前のため未評価)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2024 年の卒業予定者 82 名 合格者数 82 名 合格率 100% (内、HR19 生 77 名 入学生あたり 66.4%)</p> <p>2. 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。</p> <p>① 1 年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 国試の過去問を授業に取り入れ解説を行った。 また 9 月と 12 月に履修済み科目に絞り、国試問題により模擬試験を行なった。</p> <p>② 1 年生、2 年生は年 2 回の模擬試験を実施、3 年生は年 7 回の模擬試験実施、4 年生は web 試験も含め年 14 回の模擬試験を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 1 年生の 1 回目は 9 月と 12 月に実施 2 年生は 9 月に予定 3 年生は 5、6、7 月 (web テスト)、9 月、11 月、1 月、2 月に対面で実施。 4 年生は web 試験も含め年 14 回の模擬試験を実施。</p> <p>③ 4 年次模試の結果から、後期以降、成績不振者を月 1 回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、e-ラーニング等によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 9 月～11 月にかけて模擬試験の各科目 60%未満の学生を対象に対面等で月に 40 回以上行った。また、今年度は成績低迷学生をターゲットに、早朝補習を昨年より早く 12 月から開始し、1 月 2 月も早朝補習と午後の補講を実施した。</p> <p>④ 担任教員による学修状況の確認と学修指導を行う。1-3 年生は年 3 回以上、4 年生は月一度以上の面談を実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 全学生にはできなかったが成績不良者や授業を良く休む学生には 3 回以上行った。 4 年生は毎月の模擬試験後行った。</p>

	<p>⑤ 4年後期、週一日、国試対策講義を開講する。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  模擬試験を含め行った。</p> <p>⑥ 模擬試験後の担任個人面談を実施し、生活状況の改善や国家試験学習支援（個人指導）を行う。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  指導を行っているが対応のできない学生がいる。そのような場合には保護者に連絡し状況を報告している。</p> <p>⑦ 模擬試験成績不振者の保護者へ成績通知を行う。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  すべての模擬試験で行った。</p> <p>⑧ 10月以降模擬試験や9月以降国家試験対策講義（放射線科学特論）では、座席を模擬試験成績順（成績下位者から順に前方）に指定席を設定する。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  模擬試験ならびに補講で行った。</p> <p>⑨ 国家試験直前の1月から2月にかけて、成績不振者を対象に特別補習を実施する。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  今年度は成績低迷学生をターゲットに、早朝補習を昨年より早く12月から開始し、1月2日も早朝補習と午後の補講を実施した。</p>
4 市民公開講座の計画・実施	<p>・診療放射線技師の職務内容を広く多くの方に伝えるために市民公開講座を開催する。  <input type="checkbox"/> 達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  市民公開講座は開催できなかったが、第20回三重県保険医協会医療研究フォーラムにてpinkリボン部の学生が発表し、また同部担当教員が、FM三重の番組でマンモグラフィを中心に、診療放射線技師について視聴者に向けて放送をした。</p>

## 第1-4期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（医療栄養学科/医療栄養学専攻）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者: 医療栄養学科長                      分担者: 大井一弥 (国家試験対策WG副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長)                      事務局: 教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
中期計画 4.						▶
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p><b>1. 実習試験の導入と拡大</b>                      実習の効果をより可視化し適正な評価を行うために、実習の評価法としてレポートによるだけでなく、実習試験を実施するようにしてきた。この方向性を継続拡大し、学生の自主的学習態度の一層の涵養に努める。                      ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)                      上記達成状況の具体的内容                      食品学実験、基礎栄養学実習、生化学実験等多くの実習について実習試験を導入した。</p> <p><b>2. IR分析結果を活用した教育改善</b>                      IR推進室との連携をもって、学生の教育および生活の問題点を解析し、早期の解決を図るための検討資料とする。                      ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)                      上記達成状況の具体的内容                      模擬試験と国家試験との関連をIR推進室で分析いただき、国家試験対策指導の資料とすることができた。</p> <p><b>3. 教育質保証委員会</b></p>					

	<p>“教育質保証委員会”を設置して教員がシラバスに沿った教育を進めていることを評価確認し、必要に応じて助言する体制確立をめざす。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 シラバスチェックを行い、教育の進行可能かを確認している。また、教員に対して助言も行っている。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p><b>1. キャリアプランニング授業の構築</b> 学生の将来のキャリアプランニング充実を目的として、卒業生を含む学内外の人を招き、モチベーション向上につながるような授業形式の懇話会／セミナーを計画する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 医療人底力実践Ⅰの学科プログラムにおいて卒業生による講話を行った。</p> <p><b>2. 早期導入教育の充実</b> 1年生底力教育を利用して、管理栄養学専攻の立案に基づいて病院や福祉施設での管理栄養士の仕事を見学する機会を設け、早期の段階から学生の向学心高揚を目指す。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 病院、特別養護老人ホームを訪問し、管理栄養士の仕事を見学することができた。</p> <p><b>3. リメディアル教育の実効性向上</b> 受験者数減少が進み、入学者の学力レベル低下が懸念されるためリメディアル教育の充実が喫緊の課題である。対象となる学生にリメディアル教育への参加を促し、成果としての学修到達度を担任教員が把握してモチベーション向上をはかるように指導する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 一定の成績以下の学生を対象にリメディアル教育への参加を促している。また、到達度を担任教員が把握し、学生への指導の資料としている。</p> <p><b>4. 成績不振者に対するトコトン教育の充実</b> 1～3年の後期終了時に成績不振者に対し、2者ないし3者面談を行い、IR推進室の分析結果や学習ポートフォリオ等を活用し、振り返りによる自己認識を行わせ、目的意識・学習意欲を高めさせると共に、Learning BOXなどの学修支援システムを活用した学習方法などの指導・支援を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2年前期終了後に成績不振者について、3者面談により指導支援を行っている。</p> <p><b>5. 国家試験対策学習支援の充実</b> 国家試験対策の柱となる模擬試験の結果を常時モニターし、模擬試験では終了後直ちに振り返り学習の時間をとることにより、学生が自ら集中すべき学習項目の確認できるようにする。また、成績不振者には集中して補講や個別指導、及び保護者を交えた面</p>

	<p>談などを行い、従来から進めてきた学生個々へのきめ細かな指導を継続する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>模擬試験終了後に間違った部分の振り返り学習を行った。成績不振者については各科目下位の学生について個別指導を行っている。また、6月に2者面談、8月に保護者を交えた3者面談を行っている</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p><b>1. 国家試験の現役受験者の合格率と入学者当たりの合格率向上</b></p> <p>新卒者の管理栄養士国家試験合格率の目標は100%とする。また、進路変更や病気休学の学生を除いて、入学者の標準修業年限内の合格率は90%を目標とする。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) (国家試験前のため未評価)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>昨年度は、管理栄養士国家試験の昨年度の合格率は84.4%であった。また、ストレート合格率(入学者当たりの合格率)は67.5%であった。</p> <p><b>2. 国家試験対策</b></p> <p>カリキュラムとして4年生前期の総合演習II、及び医療栄養学特別演習で国家試験対策の指導を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>総合演習IIでは基礎的な内容を指導し、医療栄養学特別演習では国家試験レベルの指導を行っている。</p> <p><b>3. 3年生以下の学生対象の国家試験対策</b></p> <p>3年生に対しても国家試験問題に接する機会が持てるようにして、学習の意義を具体的に意識させる。また、3年生の模擬試験受験を積極的に指導する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>4年生直前の3年生の3月に模擬試験を行い、国家試験問題に接している。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p><b>市民公開講座の実施</b></p> <p>両専攻教員による公開講座を開催し、市民に本学科の研究、教育を紹介するとともに、この地域の健康、福祉の向上に貢献する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>7月に「食で健康を考える」と題して村林教授が市民公開講座を行った。</p>

## 第 1 - 4 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床検査学科/医療栄養学科臨床検査学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者: 臨床検査学科長/医療栄養学科臨床検査学専攻長            分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長)            事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.						
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1, 教育の質保証            座学、実習の内容を充実させる。小テスト、実習確認を実施して全学生の共通した知識を習得させる。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            授業最初 20 分で小テスト及び復習を実施している。            教員が各学生の解答をチェックして全員が理解を深める。</p> <p>2, IR活用            GPA等を利用して問題点を解析する。低学力学生の利益になるようにし視聴を作成して検討する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            各学年 GPA を参照して低い 2.0 以下の学生は面談する。また、ゼミでは、学力が均等になるように 2 つに分けてゼミ選択を実施した。</p> <p>3, 臨地実習の取り組み</p>					

	<p>新カリキュラムとなり単位化されたオスキーを充実した実習前学習とする。</p> <p>実習病院では多くの検査項目が存在するがその中でも最も重要な検査項目を実習前に修得させる。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>実習前には技能修復度試験を実施している。ある程度の技術を習得した上で臨地実習をするようにしている。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1, カード学習 形態学部門の教科のカードを作成して楽しく学ぶ。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>各教科に対して形態学の分野にカードを作成雄して別室においてある。学生は、ゼミ生同士、友達とカード室で何回も繰り返し学習することで技術を習得する。</p> <p>2, 面談の実施 各学年担任が面談を実施して個々の悩みや学習の取り組み方を把握してアドバイスする。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>各学年担任が中心に面談を実施している。各学年、学力低下、家庭問題、金銭問題、コミュニケーション能力の問題等の問題を抱えている。大学生として面談を通じ、大学の意向、精神的ケアを実施。</p> <p>3, トコトン教育の実施 再試験不合格者において、やる気を出すアドバイスをする。何がわからないかを明確にする。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>臨床検査学科独自のとことん教育・判断を実施している。教科別に再度、ポイントの流れ等を説明して、わかりやすく実施している。</p> <p>4, 底力教育の構築 1年時で学ぶ病院医療(症例検討、病院見学等)について有意義な教育を提供する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>病院見学を1年生、実習を3年生で実施。臨床検査学科1年生は鈴鹿中央総合病院で見学を実施。患者における検体、生理検査の流れを中心に学習する。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1, 国家試験対策 新カリキュラムにおいて総合演習がⅠ、Ⅱ、Ⅲとなり2単位増加した。これを利用して国家試験対策に充てる。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>模擬試験対策、補講の実施を中心に実施している。3年時は、裏解答の作成の仕方。4年生は、語呂合わせ、疾患の意味、検査の関連性を教授して、なるべく関連図家を重要視している。</p>

	<p>2, ストレート合格  1年生から3年生までに多くの面談を実施して臨床検査技師の仕事内容を理解させる。ミスマッチを防ぐ。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  1年時から3年時まで面談、とことん教育などで留年退学を減らしているが、まだ、若干名存在する。高校訪問等で是正する。</p> <p>3, 1年生、2年生に国家試験の重要性を理解させる。座学の学習は重要であるが将来、臨床検査技師になった時、どのように医用に貢献するのかを伝える努力をする。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  医療における条件として病院で働くには国家試験医合格しないと働けないことを伝える。文系の大学とは異なる。しかし、卒業と同時に一生使えるライセンスを手にする。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>1, 三重県臨床検査技師会  本学で11月くらいに検査と健康展を実施予定である。これまで2年1回のペースで実施していたが、コロナで最近はできていない。これを実施する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  全国検査と健康展を鈴鹿医療科学大学で実施。最近の大学の考え方に地域医療に貢献することが上げられる。本学周辺の住民に検査を通じて認識してもらおういわゆる地域支援大学である。</p> <p>2, 鈴鹿市健康フェア  鈴鹿市との共同で実施する。超音波等の検査。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  本学と鈴鹿市とで健康に対する認識を強化していた痛みのない高血圧や糖尿病といった疾患の啓発を通じ、病気の理解を深める。検査学科は、超音波を実施して啓発している。</p> <p>3, 底力ゼミの実施  地域医療支援大学を設立して鈴鹿市の地域医療に貢献する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  今後、医療大学は地元志向が強くなる傾向である。そこで必要なことは、地域密着した啓発、小学校、中学校、高校、老健、フィットネスクラブ、コンビニ等に対して臨床検査を理解してもらうことが重要である。</p>

## 第1-4期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（リハビリテーション学科理学療法専攻）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者：リハビリテーション学科長/理学療法学科長                      分担者：大井一弥（国家試験対策WG副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、松永ひとみ（大学事務局部長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松原奈未（教務課長）                      事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>成績不良、留年、退学の原因の多くは、精神的な問題、進路職業適性の問題であり、学生自身により解決が困難である。さらに保護者にこの問題が知らされていない場合が多く、教員と保護者のコミュニケーションが求められる。プライバシーに関わる非常にデリケートな問題だが、学力の底上げ以前の大きな問題として取り組むべきである。具体的にはオンライン等による保護者面談の回数を増やす。また1,2年次の学生フォローアップを増やし、ドロップアウトしそうな学生を早期に発見する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>計画通りの学生サポートを実施している。ただし、父兄の状況理解に問題がある事例が増えており、難渋学生の増加が懸念される。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>学生の多くが、学年の進行とともに基礎医学を復習、応用可能な範囲を広げる。さらなるステップアップの機会の提供として、学外のセミナーや学会参加や卒業研究の発表がある。スケジュール調整等、難しい面はあるが、徐々に頻度を上げる。</p>					

	<p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          計画通り、学生へのアナウンスを実施し、少数だが、興味を持った学生のセミナーや学会参加があった。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>国家試験の合格率は100%を目指し、最低でも全国平均を上回る合格率を確保する。そのため、1年から4年次にかけて主要科目である3科目(生理学、解剖学、運動学)の全国統一模試を行い、学習効果の確認と学習の度合いを学生自身に周知させ、この模試での成績不振者においてはe-ラーニングを用いて振り返りを行わせ補習を実施する。また、学生には自主的に国家試験学習ノートの作成を課し、個別に教員がフォローアップする。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          計画通り、学生への国家試験対策を進行できた。国家試験合格率100%は達成できなかったが、2025年3月卒業生の合格率は全国平均を上回っていた。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>昨年度と同様に、市民公開講座を対面で実施予定。持ち回りにより次回担当者は決定済み。後期講義期間終了後の2、3月開催予定。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%)<input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          理学療法学専攻主催市民公開講座を2月に開催した。</p>

## 第1-4期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（リハビリテーション学科作業療法学専攻）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者:リハビリテーション学科長/リハビリテーション学科作業療法学専攻長                      分担者:大井一弥(国家試験対策WG副委員長)、村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(大学事務局部長)、宮崎和裕(就職・キャリア支援課長)、松原奈未(教務課長)                      事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1年生では作業療法の県での状況、国際交流を講師に指導してもらい、さらにVR教材を利用し臨床現場の初期暴露を行い、臨床実習の準備を行う。2年生では1週間の実習を2回行い、病院と介護保険下の施設の概要を知る。3年生では座学の臨床での応用として、5週間の評価実習を行う。4年生の総合臨床実習では9週間の実習を2回行い、療法士としての基礎と技術の習得を目指す。教員は学生の実習配置から実習訪問を円滑に行うように計画を立て実行し、学生の実習のサポートをする。また、臨床実習の事前学習として学内にて模擬患者に対してOSCEを用い行い、実習中は臨床実習支援システムを用いて毎日管理を実施し、学校と臨床現場との密な交流に役立てる。このことで臨床実習での問題を出来るだけ早期に解決できるように援助する。そのため、授業では実習に出るための知識と技術を獲得するため工夫して実習授業にて教授する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      各学年における今年度挙げた課題を達成することができた。</p>					

<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>学習支援：講義・実習において授業内容の小テストを利用すること、実習では実際臨床現場で用いられている治療機器を使用し、体験学習をする。臨床実習で困らないように症例のまとめ方を例示して学習させる。試験問題では国家試験に関する問題を3分の1出題することにより国家試験に慣れるように支援する。learning BOX を利用して自主的な勉強に取り組めるように指導する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>多くの講義・実習で小テストおよび learning BOX の使用を試みているが、全ての授業で用いることができなかった。</p> <p>向学心の高揚：現場の臨床で働いている作業療法士や作業療法士の治療手段である作業活動に精通している芸術家、障がい有し、自立した生活を送っている方を特別講師として招いて授業で講義していただき、学生の作業療法士としての向学心の高揚への取り組みを行う。また、面談を定期的に行い、目指す作業療法士分野の確認を行い、臨床実習では就職を意識した実習配置を行う。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>特別講師として三重県作業療法士会の会長、認知症家族会の代表、脳血管障害の障害者、外国での作業療法経験を持つ作業療法士の先生を招聘して講義を行なった。面談は定期的に行い、学生の状況を確認できた。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>国家試験の合格率は100%を目指し、最低でも全国平均を上回る合格率を確保する。そのため、1年から4年生にかけて主要科目である3科目（生理学、解剖学、運動学）の業者模試を行い、学習効果の確認と学習の度合いを学生自身に周知させ、この模試での成績不振者においては learning BOX を用いて振り返りを行わせ補習を実施する。また、学生には自主的に国家試験学習ノートの作成を課す。また、3年次において外部から講師招いて、国家試験の学習戦略とグループワークを習得させ、さらに「総合演習」で業者模擬および学内試験を実施して指導する。加えて、成績不良者には補習授業を課して学習を促進させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>(国家試験前のため未評価)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>国家試験は受験者全員が合格して現役合格立が100%を達成した。来年度も今年度同様に働きかけ、国家試験100%を目指していきたい。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>市民公開講座は昨年度と同様に専攻教員を講師として開催をする方向で検討中である。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>市民公開講座は3月1日にこころの健康チェック～フレイルの予防にむけた健康づくり～というテーマで開催した。</p>

## 第 1 - 4 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（医療福祉学科医療福祉学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者: 医療福祉学科長            分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長)            事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
中期計画 4.						▶
中期計画 5.						
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1 年時から徐々に国家試験への意識付けを行い、3 年次以降は卒業論文作成、就職試験（公務員）対策、国家試験対策の 3 つの優先順位を整理し、各個人の力量に合わせて対応する。必ずしも国家試験受験を強要せず、福祉現場以外の就職先も確保しインターンシップも導入する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>            卒業論文の提出を若干前倒し、国家試験に向けて集中しての学習時間を確保することとした。また、社会福祉の現場ではなく一般企業を選んで就職先の内定を取り付けている学生もおり、国家試験受験を辞退することを認めた。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>高齢者、障がい者、児童等の領域におけるボランティア活動を強化し、学外実習で十分力量を発揮できるような取り組みを行う。座学においても国家試験と連携した授業展開を心がける。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>            1 年時からアルツハイマーデイに参加し、認知症患者やその家</p>					

	<p>族と交流し、障がい者生活施設を訪問し、重症心身障がい児者の生活実態や支援のあり方を学習し、2年次3年時の学外実習へとつなげることができている。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>2年から3年時への春休み期間中に実施する8日間の社会福祉士実習Ⅰにおいて、個々人の適性を評価したうえで今後の進路を相談のうえ決定する。国家試験を受験する学生には70%程度の合格を目指した取り組みを展開する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>第一次の短期間の学外実習でソーシャルワーカーとしての適性について、自己覚知してもらい、社会福祉士、精神保健福祉士、医療機関のMSWのどれを将来の仕事として位置づけるかの判断基準とすることとした。実際、多くの学生が自分の進路を見定めることに役だったようである。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>臨床心理学専攻と共同開催で「日本家族心理学会」を本学で開催し、市民公開講座の代替とする。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>10月13日～14日本学にて、日本家族心理学会を開催し多数の参加者あった。また会員外の一般市民の方の参加もあった。</p>

## 第 1 - 4 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（医療福祉学科臨床心理学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者: 医療福祉学科長/医療福祉学科臨床心理学専攻長                      分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、                      松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長)                      事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
中期計画 4.						▶
中期計画 5.						
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①外部実習受講を希望する学生が全員実習に参加できるよう、また希望する全員が学部における公認心理師受験資格を得られるよう目指す。近年は心理的問題を抱える入学生、コミュニケーションに支障がある入学生も多いため、公認心理師養成科目の修了希望者のうち 90%を目標とする。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)                      上記達成状況の具体的内容                      3 年生 25 名中、心理実習 II 受講者が 18 名であり、うち 16 名が合格した (89%)。なお、不合格となった 2 名であるが、両者とも将来を見通した上で、受講を放棄したものである。そのため、目標は概ね達成できたと言える。</p> <p>②講義内で小テスト、またはグループワークの場を合計 3 回以上実施することで、学力および社会性を高めることを、昨年度に引き続き継続して行う。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)                      上記達成状況の具体的内容                      73%の講義で、合計 3 回以上行うことができた (演習、24 年度退職教員分は除く)。</p>					

	<p>③レポート課題に対しては、次につなげるために修正点を指摘するなど丁寧に指導する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          教員の負担は大きいですが、「臨床心理学の基礎」「心理学実験」「心理演習 I」「心理演習 II」においては例年特に指導を行っている。</p> <p>④問題を抱える学生に対して早期に対応するとともに、学生相談室の協力を得る。必要がある場合は、保護者との連絡を密に取るようにする。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          精神的な問題を抱えた学生が数人おり、学年担当、ゼミ担当は日々学生の様子を確認し、必要な場合は学生相談・保護者へつないだ。休学が続き結果として退学を選択する学生もいたが、教員側の対応は基本的に迅速かつ適切であった。また、これらの対応については、専攻会議で共有した。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>①入学初頭における支援がその後の学業継続に大きな意味を持ったため、1年次における「臨床心理学の基礎」「医療人底力実践 I (学科プログラム)」で、大学での学び方(ノートテイキング、learningBOX の使用法、図書館での検索方法等)について支援を行う。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          当該科目において記載通り達成できた。</p> <p>②現場の職員や特別講師を許容される範囲内で招聘し、実践学修への意欲を一層高めることを目指す。受講生には授業に対する評価を実施し、学習の動機づけになったか把握する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          受講生の感想からは、現場で活躍する非常勤講師や特別講師の講義は、本学教員が提供できていない新たな視点を与えてくれたことが見て取れる。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①(臨床心理学専攻卒業のみで受験できる資格試験はないが)入学者で公認心理師養成科目の修了希望者が、卒業時に全科目の単位取得ができるよう支援する(1で記したように90%目標)。そのために、1年次から履修・修得の達成状況や出席状況について確認するとともに、その学生に応じた支援を行う。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          学年担任やゼミ担当の指導が功を奏し、原級留置者はいずれの学年も精神的な問題を抱えて休退学に至った者を除き0であった。</p> <p>②大学院在学者のうち、公認心理師資格受験者の合格率目標を76.2%超(2024年試験の全国合格率)とする。そのため、基礎的な学習を促すとともに、外部模擬試験の受験などを勧めて自ら知識を得る取り組みを行うよう働きかける。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>資格を取得した修了生を招聘し勉強会を開催した。また大学院在学者をグループ分けし、グループ学習ができる状況を作った。最終学年の大学院生には外部模試受験を促している。その結果、2025年度は4名の修了生のうち3名が合格した(75.0%)。目標としていた76.2%には届かなかったが、今回の全国合格率は66.9%であることを鑑みると、許容される結果と思われる。不合格となった修了生への支援を行っていく。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>日本家族心理学会第41回大会が10月12日～14日に千代崎キャンパスで開催される(大会長:渡部千世子教授、事務局長:奥山滋樹助教)。うち13日に予定される大会特別講演および準備委員会企画シンポジウムを、医療福祉学科市民公開講座(後援)として実施する。</p> <p>*一般社団法人日本家族心理学会様の承諾済 *学科会議で承認済</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>大会はつつがなく終了した。市民公開講座には50名の申込参加があった。</p>

## 第 1 - 4 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（鍼灸サイエンス学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者：鍼灸サイエンス学科長            分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、松永ひとみ（大学事務局部長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松原奈未（教務課長）            事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.						
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1 キャリア教育の充実            鍼灸師の職業観や将来像涵養を目標とした教育として、下記、教育講演開催とキャリアプランの指導を強化する。            ① キャリア教育講演を年 1 回開催する。            ② キャリアプランを作成させ、個人面談での助言・指導に活かす。(2～4 年生)。  <b>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</b>  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            教育講演は 12 月 6 日 5 限に卒業生の寺田憲弘先生により行われた 1～3 年生が参加。個人面談の実行中。</p> <p>2 病院・クリニックへの就職支援            病院・クリニックの鍼灸治療の融合と協力の実態調査に基づき、卒業生の病院・クリニックへの就職支援に取り組む。過去 10 年分の求人票、卒業生就職先、インターネット調査で病院・クリニック就職先リストを作成し、成績上位者より面談し、希望者を募っている。昨年度、2 名が病院・クリニックへの就職が内定した。今年度も継続して適応可能な希望者を病院・クリニックへ就職させる。</p>					

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 今年度も2名内定。求人票登録と講義中の病院就職の意義を伝え、面談によって達成。</p> <p>3 鍼灸スポーツトレーナー学専攻のフィールドワーク実施 スポーツトレーナー学および資格試験の知識と技術をアウトプットするフィールドワークを実施する。トレーナーの見学、指導を通じてチームトレーナー活動を学ぶ。また、トップアスリートの練習方法、ケアなどを直接見て学ぶ。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホンダヒート 専属チームトレーナーの仕事を見学・体験する。またインターン活動を通じて 現場でのトレーナー活動（テーピング、鍼灸治療、リハビリ、ドリンク作りなど）を学ぶ。3年生3名が2024年度インターン学生として、9月20日より活動、12月5日まで13回実施。</li> <li>・奈良県立御所実業高等学校 本学科の瀧本助教のトレーナー活動を試合会場で見学・手伝いを通じてトレーナーの役割、仕事（テーピング、ドリンク作り、応急処置など）を学ぶ。 トレーナー見学は1年生2年生の4名が参加、6月～8月まで9回実施。御所ラグビーフェスティバルは7月に行われ、2年生3年生延べ48名が参加。</li> </ul> <p>4 臨床実習の量の拡充と質の向上のため、下記見学実習を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①桜の森白子ホーム。</li> <li>②桜の森病院。</li> <li>③三重大学医学部附属病院麻酔科（統合医療・鍼灸外来）。</li> </ul> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①桜の森白子ホーム 9月6日～10月11日の金曜日1～2限、2年生の臨床実習Ⅰ内で、介護福祉施設である「桜の森白子ホーム」に勤務する鍼灸師の臨床業務を見学し、その内容や役割などを学んだ。</li> <li>②桜の森病院 4月22日～7月29日の月曜日13時30分～17時00分、4年生の臨床実習Ⅲ内で、完全独立型緩和ケア病院である「桜の森病院」における鍼灸師の臨床業務を見学し、病院の概要や鍼灸師の業務内容・役割などを学んだ。</li> <li>③三重大学医学部附属病院麻酔科（統合医療・鍼灸外来） 7月1日、7月8日の月曜日13時30分～17時00分、4年生の希望者4名が、三重大学病院に勤務する鍼灸師の臨床業務を見学し、病院の概要や院内における鍼灸の役割などを学んだ。</li> </ul> <p>5 実習・実技教育の向上のための取り組み 教育設備の入れ替えを行い、学習への理解、満足度を高める。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 東洋医学研究所4階基礎医学実習室ディスプレイ増設が完了。</p>
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>1 学習目標：進級率90%以上</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 2年次進級率100%、3年次進級率100%、4年次進級率94.4%</p>

	<p>であった。</p> <p>2 学習支援内容        学生との関わりとコミュニケーションを重視して下記内容を実施。        ① 出席および体調管理のチェックと指導        ② 課題提出状況の把握と指導        ③ 個人面談        ④ 定期試験前後のフォロー        ⑤ learning Box の活用        ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>        授業態度・修学状況・成績などの情報に基づいて、早期から面談を実施。成績下位および欠席不良の学生には反復して行い、改善が乏しい場合は支援者に理解してもらい双方からのかかわりを強化した。</p> <p>3 意欲向上・交流促進のためのプログラムを計画        歓迎会、球技大会を実施。        ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>        ○歓迎会        9月20日金曜日5限、千代崎キャンパス内、実験棟とテニスコート間の屋外、実験棟(4517室、4512室)にて実施。3年生が主体となり、1年生歓迎会を行った。2年生も参加した。バーベキューの他、ビンゴゲーム大会を行い、1年生が同級および上級学生と親睦を図ることで、大学生活により順応することができた。        ○球技大会        5月16日木曜日1限、千代崎キャンパス内、体育館にて実施。2、3年生でソフトドッジボール、バレーボールを行った。学生間で親睦を図ることができた。優勝チームには記念メダルを授与した。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1 受験者あたりの合格率：100%を目標とする。        □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>        はり師 92.3%、きゅう師 100%。</p> <p>2 入学者あたりの合格率：70%を目標とする。        □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>        はり師 65.7%、きゅう師 71.4%。</p> <p>3 指導内容        教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。        ① 1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施。        ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>        全教員が気概を高め、国家試験を意識した授業を実施している。        ② 対策授業の指導を強化し、要点文集を段階的に暗記させ、全て暗記するまで確認試験を繰り返す。        ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容 3、4年生の国家試験対策授業にて実施した。学力の底上げにつながった。</p> <p>③ 成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 4年生は実力テストの結果から、1～3年生は期末テストの結果から60点未満の学生に対し、補講およびトコトン教育を行い、課題、口頭試問、小テストを実施、後期は再試験前にも実施することにより進級率および合格率を高めた。</p> <p>④ Learning Boxの活用して隙間時間を利用した学習を促進。モチベーション維持・向上のために、定期試験後や補習終了後に個別面談を行い、学生との関わりとコミュニケーションを重視して国家試験まで一緒に取り組む。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 国試該当科目において活用した。</p>
4. 市民公開講座の計画・実施	<p>12月に開催準備中。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 12月1日(日)白子キャンパスにて実施。</p>

第 1 - 4 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（救急救命学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者: 救急救命学科長</p> <p>分担者: 大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）村田尚久（大学事務局長）松永ひとみ（大学事務局 部長）宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）松原奈未（教務課長）</p> <p>事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						→
中期計画 2.						→
中期計画 3.						→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						→
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ learning BOXを使用する教員割合を 50%以上にする  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)                      上記達成状況の具体的内容                      100%の教員が使用している。</li> <li>・ 講義で小テストを行う教員割合を 50%以上にする  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)                      上記達成状況の具体的内容                      100%の教員が行っている</li> <li>・ 授業で学生に質問をし、回答させる形式を取り入れる教員割合を 50%以上にする。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)                      上記達成状況の具体的内容                      100%の教員が施行している</li> <li>・ 教員が学生の名前を覚えるため、ネームホルダーを作る  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</li> </ul>					

	<p>上記達成状況の具体的内容 ネームホルダーを作成している</p>
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>・現役の消防士、救急救命士を特別講師として招聘し、現場での活動についての講義並びに学生との対話の時間を設ける ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 津消防、鈴鹿消防の消防職員を招聘した</p> <p>・各講義において、国家試験問題過去問を取り入れる ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 100%の教員が国家試験問題を取り入れている</p>
3 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>・受験者に対する合格率：100% □達成(100%)□ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) (国家試験前のため未評価) 上記達成状況の具体的内容 該当なし(最高学年が国家試験受験の学年に達していない) 国家試験用のテキストを購入させ、取り組ませている</p> <p>・消防士になるための公務員試験対策として、3年4月から、大原公務員試験対策専門学校の専門コース(オンデマンド)の受講(鈴鹿医療科学大学プログラム)を推奨し(受講料別途8万円必要150分授業を約50回分、テキスト、模擬試験付き)、公務員試験への準備を行う。各学生に声かけを行い、オンデマンドで自学してもらう ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 公務員受験予定者は、100%受講している</p>
4. 市民公開講座の計画・実施	<p>企画・実施に学生が参加する。ネイティブスピーカーを招聘する。参加者との対話を取り入れる企画を検討中 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ・11月24日(日)「救急時に役立つ英会話」開催し、企画・実施に学生が参加する。ネイティブスピーカーを招聘し、参加者との対話を取り入れた</p> <p>・鈴鹿市消防本部と連携し、学生消防団員を募る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 25名以上が団員となって活動している。</p>

## 第 1 - 4 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床工学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者：臨床工学科長</p> <p>分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、松永ひとみ（大学事務局部長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松原奈未（教務課長）</p> <p>事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.						
2024 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>①大学入学時に Early Exposure（病院見学、医療機器操作体験）を行い、初年次教育の充実を図る。  <b>■達成(100%)</b> □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      新入生を対象に、三重大学医学部附属病院の見学と学内での医療機器操作体験を行った。</p> <p>②新カリキュラムへの移行を滞りなく進める。（新設科目および履修学年変更があった科目の時間割配置、担当教員の割り振りなど）  <b>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%)</b> □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      3 年生までの科目について、新設科目および履修学年変更科目の時間割配置と担当教員の割当を行った。</p> <p>③4 年前期・後期に開講される特別演習科目を学科全教員で担当し、国家試験対策を充実させる。  <b>■達成(100%)</b> □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b></p>					

	<p>学科教員全員で、「臨床工学特別演習 I～V」、「生体機能代行装置学演習 IV」で国家試験対策を行った。</p> <p>④実習科目の実技試験は、ルーブリックを用いて評価を行い、実習科目の総合評価に反映させる。</p> <p>上記達成状況の具体的内容  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)      生体機能代技術学分野の実習では実技試験を実施しており、ルーブリックを用いた評価を行い、総合評価に反映させた。</p> <p>⑤学修サポートシステムの教員活用を進める。</p> <p>■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)      上記達成状況の具体的内容      learning BOX を活用した資格試験対策のコンテンツが準備されており、その他活用事例についても学科内で紹介されている。通常の講義や実験・実習科目についても、授業資料やオンデマンドの講義動画が学修サポートシステムにアップロードされている。また、A-Portal では面談記録を学生サポートメモに記載して教員間で学生情報の共有を行った。</p> <p>⑥保護者と連携の取れた指導の実施を進める。新入生と4年次過年度生を対象にして、出席状況不良の学生や成績不振の学生の保護者と密に連絡を取り、卒業までの脱落を未然に防ぐ指導を行う。</p> <p>■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)      上記達成状況の具体的内容      4年次の過年度生には、学生一人に対して担任教員1～2名を割り当てている。出欠状況と成績を把握し、模擬試験の成績を元に個人面談を行い、必要に応じて保護者と連絡を取っている。新入生には、2名の担任を割り当て、各学期で個別面談を行い、必要に応じて保護者との面談を行った。</p> <p>⑦3年生を対象に、4年制養成校在学中の告示研修を受講させる。</p> <p>□達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)      上記達成状況の具体的内容      学生向け告示研修の実技研修は9月26日に行う予定である。それまでに、対象学生の受講手続きを行い、基礎研修(e-ラーニング)の受講を進める。</p> <p>⑧モチベーション向上とキャリア支援を目的として、新入学生を対象に、1年次後期開講科目の「キャリアプランニング」の受講を促す。</p> <p>■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)      上記達成状況の具体的内容      医療人底力実践 I (学科プログラム) の中で、「キャリアプランニング」について紹介し、受講を促した。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>①GPAに基づいた学習指導計画を図ると共に、GPA上位の学生を対象に早期の進路活動を促す。</p> <p>■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)      上記達成状況の具体的内容      2年次後期にGPAが1.5以下の学生に対して学修指導を行っている。また、GPA上位の学生には、4年次の4月から就職活動のサポートを行った。</p> <p>②欠席の多い学生に対して、担任から早期に連絡を取り、状況を把握する。</p>

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  欠席回数が多い学生に対して、各学年の担任教員が連絡を取って指導を行っている。また、教育質保証委員会においても、欠席が多い学生の情報共有を行った。</p> <p>③大学祭における学科発表の支援強化を行う。  ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  大学祭学科発表の担当教員を割り当て、学生のサポートを行った。大学祭では、医療機器の展示や輸液ポンプの分解・組み立て体験を実施した。</p> <p>④学生へのボランティア活動情報を提供し、自治体が行うイベントへ参加・協力(展示等)を促す。  □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  ボランティアセンター運営委員からボランティア情報提供を行っている。自治体が行うイベントへの参加は実施できなかった。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①新卒学生の合格率は100%を目指し、入学者あたりの合格率は82.3% (42名/51名)を目指す。  □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  (国家試験前のため未評価)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  新卒学生の合格率は100% (41名/41名)を達成した。また、入学者あたりの合格率は、80.4% (41名/51名)であった。</p> <p>②GPA及び模擬試験によるクラス編成を行い、成績不振の学生を対象に前期から自習の義務付けと対策講義への出席を促す。  ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  毎月実施している模擬試験の成績から、Cクラスに認定された学生に対して、国家試験対策室での自習の義務付けと対策講義への出席を促した。</p> <p>③各クラスの習熟度に対応した国試対策や学修サポートを行う。  ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  模擬試験の成績とGPAから、3つのクラス分けを行い、それぞれのクラスに対応した国家試験対策を実施した。</p> <p>④頻出問題と必要最低限な基本問題の演習を繰り返す。  ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  毎月実施している模擬試験では、頻出問題と必要最低限な問題を中心に出题している。また、「臨床工学特別演習 I~V」、「生体機能代行装置学演習 IV」で、模擬試験や国家試験の解説を行った。</p> <p>⑤各教員が国家試験の専門分野に精通し、国家試験全体も把握している。  ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>  国家試験の学内採点のために、模範解答を全教員で作成している。また、国家試験問題を回覧して頻出問題の抽出作業を行って</p>

	<p>いるため、教員全員が国家試験の出題傾向について把握している。</p> <p>⑥国家試験サポートソフトウェアの教員活用を進める。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          国家試験サポートソフトウェアの「過去問活用ソフト」を用いた模擬試験の作成と採点を行い、学生全員の模擬試験の成績の管理を行っている。また、「過去問活用ソフト」で作成した模擬試験の解説を学科教員全員で実施した。</p> <p>⑦早期から国家試験への意識を高めるために、3年次から全国統一模擬試験の受験を促す。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          3年生に対して第3回全国統一模擬試験案内を行い、受験を促した。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>①医学・工学・生体医工学・臨床工学等に関する市民公開講座を行う。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          3月29日(土)に「病院で使う機械を分解・組み立て！」のテーマで、輸液ポンプの分解・組立を体験する市民公開講座を実施した。</p>

## 第1-4期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（医療健康データサイエンス学科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者：医療健康データサイエンス学科長            分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、松永ひとみ（大学事務局部長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松原奈未（教務課長）            事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.		→				→
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①教育内容を十分に理解させるために、e-ラーニングシステムの利用科目を10科目以上とする。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>e-ラーニングシステムの利用科目は、「情報リテラシー」「コンピュータ科学基礎」「コンピュータ科学基礎演習」「プログラミング概論」「ネットワークセキュリティ」「プログラミングⅠ」「プログラミングⅡ」「医療人底力実践Ⅲ（データサイエンス）」「アルゴリズム論」「データベース基礎Ⅰ」「データベース基礎Ⅱ」「Web基礎」「キャリアデザイン」「IoTと生体信号演習Ⅰ」「IoTと生体信号演習Ⅱ」「情報の収集と意味・演習Ⅰ」「情報の収集と意味・演習Ⅱ」「医療情報システム実習Ⅰ」「医療情報システム実習Ⅱ」の19科目であり、目標を達成した。</p> <p>②コミュニケーション能力を向上させるために、PBL、グループワーク、発表会などを取り入れた能動学習の授業科目を10科目以上とする。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p>					

	<p>能動学習の授業科目は、「キャリアデザイン」「医療健康データサイエンス入門」「Web 基礎」「情報学基礎」「IoT と生体信号演習Ⅰ」「IoT と生体信号演習Ⅱ」「情報の収集と意味・演習Ⅰ」「情報の収集と意味・演習Ⅱ」「システム戦略入門」「プロジェクトマネジメント入門」の10科目であり、目標を達成した。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>①データ・情報処理能力を向上させるために、コンピュータ演習・実習を含んだ授業科目を20科目以上にする。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  コンピュータ演習・実習を含んだ授業科目は、「情報リテラシー」「コンピュータ科学基礎」「コンピュータ科学基礎演習」「プログラミング概論」「ネットワークセキュリティ」「プログラミングⅠ」「プログラミングⅡ」「医療人底力実践Ⅲ(データサイエンス)」「アルゴリズム論」「プログラミングⅢ」「プログラミングⅣ」「プログラミン応用」「データベース基礎Ⅰ」「データベース基礎Ⅱ」「Web 基礎」「IoT と生体信号演習Ⅰ」「IoT と生体信号演習Ⅱ」「情報の収集と意味・演習Ⅰ」「情報の収集と意味・演習Ⅱ」「人工知能(AI)Ⅰ」「人工知能(AI)Ⅱ」「人工知能(AI)セミナーⅠ」「人工知能(AI)セミナーⅡ」「医療情報システム実習Ⅰ」「医療情報システム実習Ⅱ」の25科目であり、達成した。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①本学科の学生が希望する就職先は、幅広いデータ・ICT関連分野であり、幅広い内容を学修するカリキュラムとなっている。それで、本学科では、卒業時までには何らかの国家試験または認定試験に合格している学生を90%以上となることを目指す。  <input type="checkbox"/> 達成(100%) <b>■ほぼ達成(実行中・80%)</b> <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  国家試験または認定試験に合格している学生は、令和7年3月21日時点での4年生42人に対して、国家試験または資格試験に合格している学生数は33人であった。入学者44人あたりの合格率は79%であり、目標をほぼ達成している。また達成に向けた教育指導として、模擬試験の実施、過去の試験問題を使用した授業などを実施した。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>①各種団体、教育機関、学術団体などが実施している市民公開講座、出前講義、研究会、シンポジウムなどで、講演・ポスター展示などを5回以上行う  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  市民参加の公開意見交流会として、「みえライフイノベーションシンポジウム」(主催:三重県健康福祉部、10月22日)、「みえ産学金官DX人材マッチングイベント」(主催:みえDX推進ラボ、12月4日)、「データサイエンス研究会」(主催:三重ハイテクフォーラム、5月29日、6月24日、8月8日、11月1日)、「お仕事紹介」(主催:四日市メリノール学院、出前授業、1月16日)の計7回で、講演、ブース展示、司会などを本学科の教員が担当し、目標を達成した。</p>

## 第1-4期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（薬学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者：薬学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策WG副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、松永ひとみ（大学事務局部長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松原奈未（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>① 学生および保護者の期待は、留年／休学せずに薬剤師国家試験にストレートで合格することである。授業において国家試験と関連づけた内容も盛り込み、復習などでも振り返り演習などを実施させる。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>薬学科の各担任、国家試験・CBT対策委員会、薬学教育センターの教員、学生学修支援検討委員会が連携しながら目標に向かって邁進して努力している。担任/学年主任による定期的な面談(学修指導)を実施するとともに、e-ラーニングも活用しながら全学生がカリキュラムに対応できるよう配慮している。</p> <p>② 低学年では、学修に必要な情報処理能力(履修登録、課題提出、e-ラーニングなどの使用について)を身につけているかについて、学生個々の状況を担任や学年主任が確認(出席、課題提出などで判別)し、情報処理の問題による学修の遅れを出来る限り早期に対応していく。薬学教育センターが主導し、担任/学年主任と連携して対応する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>					

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  1年から3年生の専門科目中心に、科目ごとにeラーニングを活用した振り返りを実施している。学生の振り返り状況をモニタリングしていくことで、カリキュラムの進捗についていけるかどうか判別している。必要に応じて、学生と面談を通して学修の指導を実施している。</p> <p>③ 低学年（特に1年生）で、学修環境の整備（学修習慣を身に付ける、学修技能の習得、予習復習のためのeラーニング等の整備）し、学修の状況を定期的にモニターする。学修進捗に遅れがある学生に対して、「学生ケア会議」を設置し対応する。学生ケア会議には、学科長、薬学教育センター、担任、学年主任、必要に応じて心理士も加える。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  教育質保証委員会、学生学修支援検討委員会、薬学教育センター、学年主任、担任からなる薬学学生ケアチームを構成して、前期の早い段階で、1年生からケア学生を抽出し、対象学生の学修指導を実施している。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>① 教育ツールの提供のほか、学生が質問しやすい現場環境作りに取り組む。特に低学年には、教育ツールを取扱う知識や質問メールの作法などの導入教育（薬学教育だけではなく常識モラルの教育）を実施していく。これまで学修指導の一旦として実施してきた担任面談に加えて、学年主任による面談も実施することで学生が質問しやすい環境作りを構築する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  本課題に関しては、薬学科の担任教員が担当している学生に対して定期的に面談を実施することで対応している。加えて、本年度より、前期中に1年生と2年生全員に対して、学年主任が面談を実施することで、担任以外にも学修相談を含め相談しやすい環境作りを構築した。</p> <p>② 高学年では、成績下位層に対して各科目担当教員/担任/学年主任が連携して学修支援を行い、学力を向上させる。また、中上位層には、向学心の醸成とモチベーション維持のための教育指導を実施し、自学自習のためのコンテンツ提供も行っていく。基礎科目演習、薬学総合演習、薬学特別演習それぞれのクラス編成をおこない、学修の効果を高めていく。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  6年生対象の国家試験対策では学修の進捗状況に応じて、クラス編成を行うことで、成績向上に寄与したと考えている。また、担任面談の強化を実施、早期の段階での保護者も交えた3者面談、加えて学生のモチベーション向上のための学部長面談を取り入れた。5年生については、現在行われている国家試験を見据えた対策をR6年以降の新入学生を対象として単位化するためのカリキュラム編成に着手している。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1, 2に基づき、学修のためのコンテンツ（学修ツール、授業フォローコンテンツなど）を提供し、知識の定着を図る。特に低学年にはそれらのコンテンツを正しく利用できるよう指導しつつ学修環境を整備し、低学年での学力の底上げを行う。</p>

	<p>① 本学の薬剤師国家試験合格者の成績を指標として、4年次 CBT の合格率が 100%、各学生の得点率が 70%以上になるような教育体制を構築していく。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>4年生には薬学総合演習を中心とした薬学共用試験 (CBT 試験) 対策を実施している。本科目は薬学科の全教員が関わっており、通年のカリキュラムでの指導体制を整えている。国家試験・CBT 対策委員会が中心となり学生の学修進度をモニタリングし、進度に遅れをとっている学生に対しては担任と連携しながら介入し、指導を実施している。</p> <p>② 薬剤師国家試験の目標は、ストレート合格率の向上とし、60%を到達点とし、さらに合格率の向上を目指す。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>目標値に向けて6年次学生103名および教職員が一丸となって努力を重ねた。本年度は、問題の難化があったが47.2% (昨年度: 46.3%) と微増、昨年度に近いストレート合格率が維持された。本結果を踏まえ、次年度の国家試験に向けて、担任に加え国家試験・CBT 対策委員メンバーによる面談も重ねて各学生に適した学習指導を実施し、国家試験に対応する。加えて、ストレート合格率向上のため、3年次段階から前倒しの統合学習のカリキュラムを導入し、学生の長期的な学力向上・改善を図る。</p>
4. 市民公開講座の計画・実施	<p>一般市民向けの公開講座を毎年、継続的に実施し、大学の魅力を広く発信し続ける。薬学科広報の一環として、企画広報課および入学課との連携を強化する。また、小中高校生への広報や高校訪問も充実させ、入学希望者数の拡大を目指す。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>本年度、生涯教育委員会にて8月8日に「夏休み子ども薬剤師体験」を実施した。鈴鹿市内の小学生とその保護者に来学していただき職業体験を通して本学の魅力を知っていただく良い機会となった。また、10月27日に市民講座 (講師: 西田教授、亜鉛の力: 私たちの健康を保つために欠かせないミネラルの秘密) を企画して実施した。大学の魅力を発信するため、講座後、学内施設の見学も開催した。200名ほどの参加者の多くが見学会にも参加し、大学の設備にも興味を持っていただけた。</p>

## 第1-4期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（看護学科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者:看護学科長                      分担者: 大井一弥 (国家試験対策WG副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長)                      事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
中期計画 4.						▶
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムマップの活用度を向上させ、学生自身による振り返りを支援し、学びの促進への方向づけを行う。</p> <p>◆オリエンテーションでの具体的説明・入力時間を設定し、前・後期での担当学生との面談時に確認した。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)                      上記達成状況の具体的内容                      オリエンテーション時に説明を行い、学生各自で記載後に担任教員が確認を行った。</p> <p>◆これまで何を身につけ、何が課題で、これから何を学んでいくのかを学生が主体的に理解できるようにする。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)                      上記達成状況の具体的内容                      ガイダンス時に今後の予定を説明した後に、学生担任教員が学生各自で設定した今年度目標内容を確認してコメントを返した。また、看護技術については卒業までの各看護学別の看護技術の到達度について実習終了時に各自記載し、各看護学実習教員が到達内容を確認した。</p>					

②多様なメディア（learning Box、Google フォーム等）を用いてアクティブラーニングを推進する。

◆反転授業を取り入れる。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

ほぼすべての科目においてアクティブラーニングや反転授業を取り入れた。

◆学生の理解度を高めるため、各回の授業での小テストやリアクションペーパー等を導入し、理解度の確認をする。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

ほぼすべての科目でリアクションペーパーや Learning-Box 等を用いて学生の理解度を確認した。

③授業評価アンケートに対応し、授業内容の改善を推進する。

◆アンケート回収率を高める。

各セメスター末には、各科目責任者からアンケート協力を呼びかけた。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

各科目担当教員は試験解説時間に授業評価記載を呼びかけている。学生がアンケートを記載できるように、アンケート入力時間の確保について教員への依頼を行った。

◆学生のニーズに応える教育内容と教育方法を具体的に実施する。次年度のシラバス作成時に具体的な改善を続けている。

■達成(100%)□ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

各教員は昨年度授業評価を参考にシラバス作成時に具体的な改善点を記載して、毎年度さらなる継続的改善をめざしている。

④「教育の質に係る客観的指標」と看護学科の現状の教育内容を精査し、必要とされる内容を組み込む。

◆「教育の質に係る客観的指標」の内容を精査し、看護学教育内容との適応状態、不足内容を点検する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

客観的指標として2023年度の看護学科各学年別 GPA 点数、各科目の特別教育実施者数と不合格数、留年者数、ならびに2024年度実施の卒業生アンケート（対象は卒業生・就職先施設）がある。成績不振者の対応は学力不振学生に対して学生担当教員が学習面と生活面などを含めて個別指導を丁寧に行い、教育質保証委員会で特別教育実施の有無を個別の状況確認をした上で判断を行った。そのため、学生個々の状況に対応できている。また、卒業生アンケート結果では、大学のカリキュラムに満足しているとの回答が84.2%、学科による専門教育が役立っているという回答が95.3%と大多数を占めていたため、必要とされている学習内容が含まれていると考える。就職施設から学生が在学中に身につけてほしいこととして、「コミュニケーション能力」（前回1位➡1位）、「専門分野の知識・技術」（前回3位➡2位）、「協調性」（前回6位➡3位）の項目が上位となっていた。これは、コロナ禍での実践的な学習や経験の不足が影響していると考えられる。そのため、今後は各科目においてグループワークなどアクティブラーニングを活用して、専門知識と技術や協調性の更なる向上を目指していく。

	<p>⑤2025年度カリキュラム変更に伴い新設される医療人底力実践Ⅳ（他学科連携プログラム）の円滑な運営のために、看護学科の体制整備を行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>他学科連携プログラムを担当する科目担当者間で、円滑に運営するための調整を行っている。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>①成績不振者への学修支援計画の継続、評価、改善を行う。</p> <p>◆学科教務委員会、学生委員会、学年担当と担当教員が連携して成績不振者の学修支援計画を作成する。</p> <p>前期・後期セメスター開始時には、学生担当教員が学生面談を行い、学修目標の設定とその振り返りを行いながら、学習支援を行った。授業の出席状況や成績に課題がみられる学生については、教員間で情報共有し、早期に面談をして学修指導、生活指導を行った。</p> <p>■達成(100%)□ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>出席状況や課題提出に指導が必要な場合には科目担当教員から教務委員や学生担当教員に早期に連絡が入る体制が整備されている。また、成績不振学生には教務委員会と教育質保証委員会にて前期・後期の学習支援体制を検討・決定しており、学力不振学生に対して担当教員が学習面と生活面も含めて個別指導を丁寧に行っている。学生への指導内容については、科目担当教員とも共有し、教育質保証委員会で特別教育実施の有無を個別の状況確認の上で判断しているため、学生個々の状況に対応できた。今後も学生個々の状況を把握しながら学修・生活指導を行う。</p> <p>◆学修支援計画の評価と改善を行う。</p> <p>特別教育を含め、成績不振者への学習支援の評価を行い、必要に応じて修正をしていく。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>成績不振学生には再試前の試験解説時と特別教育実施前の2度の面談を学生担当が行い、学修状況や生活状況、心理状況に課題があるかを評価してから特別教育に入っている。特別教育中には科目担当教員が当該学生の状況に応じた学修支援を行っており、その情報は教育質保証委員会や教務委員会、必要時には学生担当教員にもフィードバックされ、次学期へとつなげた。</p> <p>②入学前教育（推薦入試予定者で希望者）とリメディアル教育を充実させ、入学生の学習能力を向上する。</p> <p>総合型選抜入試の導入をはじめ、いろいろな入試スタイルで入学する学生に対して、入学時のプレイスメントテストで高校までの学習内容習得状況の判断を行い、必要な学生にはリメディアル教育を勧めた。リメディアル教育の出席状況についても情報共有し、担当教員を中心に早期から学修指導を行った。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>新入生でリメディアル教育の必要な学生については学生担当教員にも出席状況などの情報共有を行い、必要時に学生担当教員が個別面談にて学修面と生活面の指導を実施した。</p>

<p>3. 各資格試験の合格率及び入学あたり合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>2025年2月の看護師国家試験105名、保健師国家試験30名受験予定で、100%合格を目指す。</p> <p>看護師国家試験受験者は、2021年度入学者108名のうち100名が受験予定であり、入学者あたりの合格率目標は92.5%とする。</p> <p>1・2年生には基礎知識定着を目的として夏期・春期休暇中にe-learningの課題を課すと同時に、科目別模擬試験を12～1月に実施し学習状況を確認する。</p> <p>3年生前期は病態の理解など専門知識の定着を図るためセミナーを実施し、年度末に習熟度確認の模擬試験を実施する。</p> <p>4年生は模擬試験結果を有効活用し自己の課題を早期に把握し課題解決に取り組めるようセミナーや学習計画立案を年度初めに実施する。</p> <p>国家試験で求められる読解力、思考・判断力の強化を図るため、セミナーを企画実施し、模擬試験によって学習状況を確認する。学力不振学生を対象とした強化セミナーを9月から開始し、学習状況や成績を担当教員と共有し、継続的な学習支援の体制をとる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>看護師国家試験105名、保健師国家試験29名受験し、看護師・保健師とも全員合格した(合格率100%)。</p> <p>今年度は、担当教員に個別指導への活用をめざして担当学生のセミナー参加状況・模試結果などを迅速な公開した。また、6月末までは模試・セミナーを減らして卒論のための時間を確保し、学生からもこの対応に肯定的意見があった。</p> <p>看護師：9月には成績が伸び悩む学生30名対象強化セミナー3回を実施した。セミナー受講者の実施後のアンケートで理解や参加の満足度などおおむね肯定的な意見であったが、欠席が4名と多かったことが次年度への課題となった。11月からは成績不振学生16名を対象に少人数クラスによるキャッチアップセミナーの実施と、12月には模試結果の下位学生への国家試験対策委員による個別面談結果も担当教員と共有しながら試験対策をした。</p> <p>3年次には後期の看護学実習準備も兼ねて、6月に解剖・病態中心としてセミナーを実施した。</p> <p>1・2年次には、夏季休暇中に基礎的な知識の定着の機会としてe-learningによる課題学習を実施し、ほぼ全員が課題提出を行った。年度末にはセミナー、模擬試験を企画実施した。</p> <p>保健師：9月に実施した模擬試験の結果から学習課題を分析し、受験予定者は認を対象に補講を実施した。成績不振者数名は個別面談を行うなど、個別の学習課題に保健師課程の教員が中心となってサポートした。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>7月27日(土)10:00～12:00 白子キャンパス1号館7階1701教室で市民公開講座を開催する。</p> <p>テーマは「一緒に考えよう！子育て世代を守るための災害への備え」</p> <p>◆頻発している災害や今後の発災の可能性を受け、妊産婦や乳幼児を子育て中の家族が防災や発災時の対応について理解を深め、日ごろからの備えを見直す機会とすることを目的とする。</p> <p>◆子育て家族を中心に市民が参加できるように広報する。</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p>7月27日に白子キャンパス1号館1701で第4回看護学部市民公開講座を開催した。「一緒に考えよう！子育て世代を守るための災害への備え」をテーマに、母性看護学・小児看護学教員7名が担当した。國分教授、倉田教授による講義と、教員によるグループワーク（レジ袋とタオルでおむつ作成、紙コップ授乳）、防災グッズの展示を行った。子育て家族だけでなく、災害支援に関わっている方や子育て支援をしているNPO等多様な立場の方16名の参加によって活発な意見交換ができ、アンケートでも好評価を得た。</p>
--	---

## 第1-4期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（医療科学研究科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2023年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 学内研究の推進と研究指導</li> <li>4. 広報活動の計画・実施</li> </ol>						
責任者：医療科学研究科長 分担者： 事務局：大学院課						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.			—————			▶
中期計画 2.			—————			▶
中期計画 3.			—————			▶
中期計画 4.			—————			▶
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①図書館、自習室等の設備の不足、兼任教員を中心とした講義および研究指導体制等、教育の質保証の観点から、東京サテライトコースの学生募集を停止し、順次廃止していく。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>東京サテライトコースはすでに募集を停止しているが、現在は修士課程2年生1名、博士後期課程3年生3名が在籍中である。東京での対面授業は輪講を年2回行っており、2025年度をもって東京での対面授業は終了する予定である。講義については、2024年度をもって終了した。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>①社会人院生が多いため、利便性を考慮し、支障のない範囲でWEBでの講義を活用する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>一部の講義はZOOMで行っており、時間の制約がある社会人には好評である。</p> <p>②院生の投稿論文費用の負担軽減のため補助を強化し、論文投稿を促して研究の活性化と対外発信を積極的に行う。</p>					

	<p>■達成(100%)<input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2024年度3月の博士課程修了者がいない事もあり、今年度は投稿論文費用補助の申請者がいなかったが、引き続き、当該補助の予算確保は行っていく。</p>
3. 学内研究の推進と研究指導	<p>①大学院兼担教員を可能な範囲で増員し、全学的な研究指導体制を強化する。</p> <p>■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>看護学分野に1名、作業療法学分野に3名(うち2名は講義のみ担当)の兼担教員を増員した。</p> <p>②大学院セミナーを博士課程選択科目として活用することを通じて、学内での研究情報共有と大学院教育強化を推進する。</p> <p>■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>今年度から博士課程の選択科目として、一定条件下での大学院セミナー聴講による単位認定を可能とするカリキュラム変更を行った。これにより他分野教員のセミナーの聴講を通じて院生の研究能力向上を図っている。</p>
4. 広報活動の計画・実施	<p>①学部学生及び社会人、特に本学卒業生の大学院入学の促進を目的とした情報発信等の広報活動を強化する。(同窓会や大学祭を利用して大学院の情報を流すなど情報提供の場を設ける。)</p> <p>■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>同窓会誌に大学院入試情報を掲載し、学部卒業生に入試情報を広報している。</p> <p>大学祭にて大学院のブースを設け、大学院の状況、研究成果等を一般の方にも周知した。</p>

## 第1-4期の活動計画の達成状況

重点分野 11：各学科教育の特色（薬学研究科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2023年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 学内研究の推進と研究指導</li> <li>4. 広報活動の計画・実施</li> </ol>						
責任者：薬学研究科長 分担者： 事務局：白子教務課／大学院課						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.			—————			▶
中期計画 2.			—————			▶
中期計画 3.			—————			▶
中期計画 4.			—————			▶
中期計画 5.						
2024年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>講義に最新の知見を取り入れるとともに大学院生に講義内容が伝わるようシラバスの記載事項を精査し、教員間で相互に確認する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>            新たな分野として高度専門教育科目4科目を新設するとともに、既存の科目に最新の知見を加え、講義内容に合わせてシラバスの見直しを行った。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>社会人大学院生が高度専門教育科目を受講しやすいよう講義時間を柔軟に調整するとともに、希望により遠隔講義を取り入れていく。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>            社会人大学院生の要望を基に講義の曜日、時間を調整するとともに、必要に応じて遠隔での講義を実施した。</p>					
3. 学内研究の推進と研究指導	<p>学内共同研究の推進および複数指導体制の充実を図るため、大学院兼担教員を増やし、特に若手研究者の増員に努める。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>					

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  新規兼任教員として助教1名を増員し、課題研究の指導体制を整えた。今後、さらに学内共同研究などを推進していく。</p>
<p>4. 広報活動の計画・実施</p>	<p>薬学部学生に向けた大学院説明会の実施、同窓会での社会人向け大学院説明会の実施、大学祭での一般及び在学生向け大学院紹介ブースの設置、大学院の相談窓口の設置、を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  広報担当者による大学院進学についての個別相談を実施するとともに、進学希望者に対してアンケートを行い、25名程から回答を得た。また大学祭での大学院研究紹介、薬学部同窓会での大学院説明会を実施し、大学祭では400名以上の入場者を得た。今年度は1名の内部進学者と2名の社会人大学院生により合計3名が入学した。</p>